FEBRUARY 25th 1902.

（毎月一回廿五日發行）

（明治二十七年六月廿五日第三種郵便物認可）

REPORT OF THE SERICULTURAL ASSOCIATION OF JAPAN.

NO. 116.

大日本蠶絲會報

第百拾六號

明治卅五年二月廿五日

目次

●論說

●蠶業と社會との關係　農學博士　酒匂常明

●養蠶の秘術　木村豊太郎

●本年蠶絲業界の豫占　吉池慶正

●東北地方の蠶業　農學士　本多岩次郎

●清國器械製絲場に於ける製絲法一班　山本竹藏

●蠶種製造に就て　農學士　須田金之助

●日本に於ける萬國蠶度會議に關する現況（佛文）　今西直次郎

●大日本蠶絲會報改良の視辭（英文）　プリンクリー

●雜錄

●美蘭生絲檢査所蠶絲試驗報告（繭の速成乾燥に就て）

●風穴調査（信州別所の風穴）

●伊國蠶業雜誌主筆測量學士マリニー氏が我國に寄贈せる蠶繭の標本

●問答

●桑苗仕立法に就き質問竝答●桑葉害蟲の件に就き質問竝答●桑葉價格の件に就き質問竝答●蠶兒の各眠前に於ける狀態と給桑の件に就き質問竝答●蠶兒の動靜に就き質問竝答●病蠶排泄物の件に就き質問竝答●蠶室蠶具消毒に就き質問竝答

●絲況

●横濱市場（和文、佛文、英文）紐育市場●里昂市場●美蘭市場●上海市場

●外報

●米國に於ける機業の今昔●歐洲に於ける蠶絲取引所現況●伊太利製絲家の會合●伊太利に於ける蠶絲保護同盟會●紐育の競馬と紐物の流行

●雜報

●蠶絲調査會に關する建議案●屑物の黴菌に就て●富山縣の桃蠶飼育場設置補助規定●徴兵猶豫の蠶業學校●諏訪に於ける大製絲家の生産額●岩原謙三氏の經濟談片●宮崎縣に於ける蠶業●人事彙報

The Association; No. 1, Nishikicho, Sanchome, Kanda, Tokyo, Japan.

蠶絲の如き對外貿易品は須らく海外の華客に紹介して以て其販路を擴張するに努めざるべからず、蠶業の如き世界的の產業は宜しく智識を廣く各國に求めて斯道の開發を圖らざるべからず、本會夙に茲に觀る所ありしも微力其局に樹つ能はざるを深く憾とせり、然るに今や斯業に熱心にして有力なる會員六千五百餘名を得、其贊襄により會運日に月に勃興するに至れり、依て此際一層の奮勵をなし、一方に於て當業者を興奮せしむるの方法を講じ、一方に於て會報上多少の歐文を加へ、每號數千部を增刊し、廣く世界の蠶絲業に關する學會、協會、學校、組合、生絲貿易商、製絹業者等に配布し、日本生絲の聲名を知悉せしむると同時に、日本蠶業の眞相を紹介せんとす、庶幾くは當業者諸君益奮勵し、本會の事業を翼贊し、蠶業の伸暢を企て富力の涵養を圖られんことを、若し幸にして本會が希望の一端を達するを得ば、是れ實に諸君の力多きを信ずるなり

豫告の通客月分より會報の改良を相圖り候へども事匆々に出て不備の點を免れず然れども漸次序を逐て圓滿の域に達せんとを期し候條御了承相成度候又本會報に用る紙質は可成精良のものを相撰み度考に有之候へども遺憾ながら經濟上許さゝるものの有之海外に送付する分丈客月同樣のものを相用ひ他は舊に復し候都合に就き不悪御諒知被下度此段併て稟告仕候

●本報定價

一冊　金拾五錢
一ヶ年分　前金壹圓五拾錢

明治三十五年二月二十五日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區錦町三丁目一番地　池田蘆

印刷人　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　山本鉄次郎

印刷所　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地　株式會社　秀英舍

發行所　東京市神田區錦町三丁目一番地　大日本蠶絲會

電話番號本局一千四百七十三番

大日本蠶絲會報第百拾六號

●論說（Contributions）（Opinions）

●蠶業と社會との關係

（大日本蠶絲會第七回小集會演說）

大日本蠶絲會特別會員　農學博士　酒勾常明

諸君、我々日本人は世界の他の國民と異つて最も幸福を得て居ることがあります、それは定めて御承知でありませう、私は其幸福が二つあらうと思ひます、一つは申すまでもなく萬世一系の天皇陛下を戴いて居る、是は實に世界無比でございます、是が實に日本人民の大なる幸福でございます、如何に世界の他の國民が此幸福を得たいと思つても得られない、皆過去に屬して居る、今日から新に建國以來一系の君主を各國が戴かうと思つても過去つたことは出來ない、世界何れの國の帝王と雖も戰爭、革命等の爲め系統を斷絕されて居る、所謂建國以來萬世變らない朝廷と云ふものは日本の　天皇陛下より外に無い是は實に我々人民お互に第一の幸福と信じます、此事は諸君も十二分御承知のことであるから別段何も申しませぬ。

それから第二の日本人民の幸福と云ふものはドウ云ふことであるかと云ふと、日本の人間は男子であれ女子であれ皆所謂家族團欒の一家獨立の幸福を占めて居ることであります、御承知の通り日本の男子にして妻を娶らず家を持たぬ者は無いと言つて宜い、又日本の女子にして夫に嫁せず家を持たぬ者は無いと言つて宜い、即ち日本の男女何れに於ても一家を構へ子孫を設けてさうして家族團欒家系連綿の幸福を得て居る、是が又外國には昔はあつたかも知れぬが、今日に於ては殆ど例が無い、歐羅巴の開明國にしても又亞米利加にしても是等の國に於さまして は

妻を娶ることも出來ず夫を持つことも出來ぬ者が實に澤山あります、なぜであるかと云ふと、即ち生計の困難から來るのであります、下等社會は無論貧困であるが、中等は中等の生活をせねばならぬ、又上等は上等の生活をせねばならぬ、何れも相當の收入或は資產と云ふものが無ければ一家を保つことが出來ない、而して生活費は餘程高く、種々の租稅其他の入費が掛ります、故に男は妻を持つことも出來ず、一家を構へることも出來ず、從つて子孫を繁殖することも出來ない、女子も同じことで亭主を持つことが出來ない、未婚の男子或は女子が非常に多數を占めて居る、又生活の有樣に至つても日本は下宿とか寄宿とか云ふことはホンの若い十五六歲の時、或は大學に這入れば二十四五歲になるが、所謂學校時代のことである、既に成年に達した者は下宿とか寄宿とか云ふ不自由なことをせず、一家を構へて幸福な家族生活を營んで居る、外國では死ぬるまで下宿して居る者が男子にも女子にも澤山ある、一家を構へることの出來ぬ者は下宿して其主人の家で飯を食はして貰ひ、或は外の飯屋に行つて三度の食事を爲すやうな習慣である、勿論彼の國はそれが習慣であるからさう云ふ未婚の男女に對して自由を充す爲に飯屋に行つても種々便利に出來て居ります、敢て我々が想像するほど苦いとも思つて居りませぬ、多數の人がさう云ふ生活をして居る、左れば日本ではお嬢さんと云ふものは大概二十歲前後になると皆奧さん內儀さんになる、外國では五十歲のお嬢さんも八十歲のお嬢さんもある、私共は五十歲八十歲の皺のある婦人に向ツてお嬢さんと云ふのは甚だ御氣の毒のやうに感じますが、併ながらお嬢さんに相違ない、矢張りお嬢さんと言ひます、御承知の通り外國ではそれ〳〵國々の辭があります、先づ英國ではミッスと云ひ、獨逸ではフロイラインと云ひ、佛蘭西ではマダモアゼルと云ふ、即ち名を呼ぶ時にお松お嬢さんとかお竹お嬢さんとか云ふので、未婚の人は年齡の長幼に拘らずお嬢さんを附けて居るから交際上御氣の毒な場合が外國にはありますが、それは彼の國では我々が思ふほど耻かしいとは思はぬ、併ながら人間であるから皆一家の生活を營みたいと云ふ希望は十分持ツて居りますが、如何せん一家を維持するだけの見込みが無い、それは夫婦だけで其稼ぎでもすれば生活が出來るが、併し子供が出來る、子供も一人なら宜いが又殖る、其子供を養ふ見込みが付かないと云ふことで皆鰥寡孤獨の生活を爲して居るのである、是は實に氣の毒なことである、それであるから日本では娶らざる男子は居らぬ、又嫁せざる女子は居らぬと云ふことを外國人に話しても決して信用しない、ソンなことは有り得べからざることで嘘と思ふ、若し果してさう云ふ幸福な國があるならば我々も日本國に生れたいものであると云ふことを言ツて居ッて殆ど信用しない有樣であります、是は實に日本國民の仕合せである、私共の如き者にしても先づ一家を構へて子供も學校にやッてあるやうなことである、此幸福は長く續くものであるかドウであるかと云ふと、日本も或は西洋のやうになりはしないかと云ふ心配がある、是は今日所謂社會問題と云ふものである、社會の安寧幸福　抑〻人間は世の中に出て來て一方に勤むることは勤め、又一方に於て幸福を得られぬのは憂念不愉快な話である、外國人はなか〳〵日本人の及ばぬほど勤めて居る、非常に勉強して面して唯今言ッたやうな片輪者の生活をして幸福を得られない、デ日本のやうな幸福は私は長く得たいと思ひます、幸に氣候も良し、土地も良し、物產は隨分出來るのである、さればこそ今日まで幸福な生活を得たのであるけれども、今日の有樣が既に大分以前と違ッて生活が困難になッた、困難は生活の進歩を意味するものである、先づ家の中の支度から着物或は蝙蝠傘をさすにしても毛布を着るにしても從前より大分入費が多くなり、又國家に納むる租稅も又地方の入費に差出す所の地方稅なり、或は村費とか協議費とか又寄付であるとか慈善であるとかどうしても入費は多くなッて來て居る、又時としては天災地變、或は水害と云ふものもある、此水害などがあると非常に入費が殖る、一方に於ては其年は收獲が減る、斯う云ふ風に公費が殖る傾さを持ッて居る、之に對しては生產が增加せぬければ唯今申しました幸福も遂に我々が得られなくなるかも知れない、外國では先刻申しましたやうな次第であるから親の跡を子が繼ぎ、子の跡を孫が繼ぐと云ふ譯にいかぬ、習慣上家があつても家族は無くなつて

仕舞ふ、例へば私は酒勾と云ふて酒勾家は子々孫々傳へて行くが、外國では事情が違ふ、現在の人が家も持たず子孫も持たなければ自分きり潰れて仕舞ふ死ねれば親類とか友達とか云ふ者が身躰だけは葬つて呉れる、墓場も十年經てば毀れて他の人の身躰を又其所へ埋むると云ふ樣な譯で永代石碑を建てゝ忌日毎にお詣りをすると云ふことは餘り無い、我家に先祖の位牌を備へて命日に禮拜することも餘り無い去れば家督相續と申すとも日本の樣にやかましくなくて財産があれば近親又は權利者に分配するだけのことである、是等は愉快幸福なる國風とは思はれない、斯樣に世の中の形勢が段々困難に傾いて行つたならドウしても生産を進むる外ないのである、其生産を進むるに付ては農商工の總ての事業がありますが、此蠶絲業と云ふものは最も肝要なるとである、又前刻申しました家族の幸福、即ち一家を構へて樂むと云ふことゝ、誠に能く符合して行く、蠶絲業は其の專門家が唱へて居る通り、蠶絲業一方を專門として行くよりも農家の副業として別に米を作り畑物を作ると共に蠶を飼うのは最も安全で最も經濟である、是は私も同意する所であつて唯今の家族生活と云ふ中に含んで居る、主人が桑を刈て來る、女房子供が蠶を飼うことは最も適して居る、是等の事は只蠶絲業が利益があるとか云ふのみならず、社會の問題に大變關係して居る、蠶絲業は社會の幸福に非常なる關係を持つて居ると私は思ふのであります、從來から斯ふ云ふ習慣が多少ありますが、例へば將來娘が嫁入りに行く時は少くも支度が要る、今日の如く入費の多い世の中で其嫁入りをする時に親が總て入費を辨ずることは困難である、是等も娘が嫁入り支度の一半を自ら働き自ら辨ずるが宜い、蠶を養ひ絲を製して賃錢を取り、又は織物を織つて自分の着物を拵へるやうにして其幾分を自ら辨ずるやうにせねばならぬ、又他に嫁して後は子供が出來れば其子供を率ひて蠶を飼つて家の經濟を助くるやうにせねばならぬ、夫一人が田畑の稼ぎをして一家を支へ、さうして子孫に相當の教育を與へることは是から先き出來ないと思ひます、例へば一家團欒の幸福と云ふても所謂四百四病の中で貧の病が一番辛い、貧しくしては餘り幸福でない、一家を構へても少しの貯へもなく、病氣になつても藥を買ふことが出來ない、又來其他の必要品を買ふ入費に差支へ、子供は學校にやられぬと云ふ有樣では是は幸福でなく、寧ろ苦みである、それ等の事を能く考て見ますとドウしても生産を進めねばならぬ、其生産を進めて行くには蠶絲業が日本特種の仕事である、今私の言ッたのは一家とか家族とか云ふのであるが、是は施て一國の富一國の大利益になるのである、今日本の生絲が外國に賣れて五千萬圓以上の金を取ッて居る、年々五千萬圓以上の金を外國から取るものは日本では生絲より外に無い、生絲が第一等である、日本は比較的貧乏な國である、又入費も要る、外國から物を澤山買はねばならぬ、之れを能く辨じ之れを支へて行くのは實に生絲の力にあると言ッて宜い、加之其生絲で拵へる所の織物の如き又二千萬圓以上外國に出る、此兩方合せて一億萬圓の金を外國から取るとは近い間に否な既に本年に於て期することが出來ると思ッて居ります、獨り家族のみならず、國家重大なる生産であらうと思ひます、

それで此無比の萬世一系の　天皇陛下を戴き、又男女とも一家團欒の幸福を得ると云ふ此國恩に醇ゆるには ドウしてもお互に勉强して生産の事に從はねばならぬ、今回此品評會を開かれましたる大日本蠶絲會、是は今御話した通り家族、社會、國家と云ふものに非常に關係を持ッて居る、今日は是から出發しますからこれだけの事を一言して止めます。

養蠶上の秘術

大日本蠶絲會
特別會員　木村豐太郎

古來、飼蠶の秘術は、眠起にありと云へるが如く、眠起に於ける取扱は養蠶上頗る至難のことにして、一朝其術を過たば蠶兒の衛生を害ひ、虚弱に陷らしめ、或は發育の不齊を來す原因たらしむるとなきを保し難し、然れども今猶舊慣を墨守して養蠶の豐凶は天運の如何に存するが如き感念を懷く當業者にありては、蠶兒の就眠は宛然吾人の睡眠に於けるが如くしかく安樂なるものとの忘想を抱き、其就眠前に於ける取扱の如きも之れを等閑に附し、特に一旦就眠すれば已に滿足の感をなし、其起蠶を見るに至るまでは室内

氣候の如何、乾濕の適否等に頓着することなきものゝ如し、顧ふに蠶兒が長時の間絶食して脱皮を終るまでには、其躰内諸器官を勞すること甚し容易のことにあらざるべし、果して然らば眠起の際に當りては其取扱に就き充分の注意を要すべきは論を俟たざることなりとす。

眠起の際に於ける取扱に注意を要すべきは既に斯の如くなるに、其方法各人區々にして、或は眠前のせめ桑と稱して佃桑を求むるの蠶兒は極めて稀なるの時に至るも、猶ほ頻々として桑葉を給し、或は又蒲團桑などゝ唱へて蔟桑堆積し、蠶坐に濕潤を釀すをも顧みず、屢々贅桑を與へて以て得たりとなすものあり、剩さへ蠶坐の濕潤を處るゝ爲めにや、糇糠を多量に撒布し、眠蠶をして故らに糠中に埋沒せしむるに至らしむるが如き等の取扱をなすものなきにしもあらず、此の如きは啻に彼れが脱皮をして愈々困難ならしむるのみならず、其呼吸を妨げしめ絶て其効あるを認むること能はざるなり。

抑も蠶兒の就眠に當りては、如何せば最も彼れの意に適すべきやは問へども、應へざれば之れを詳かに知るに由なきが如しと雖ども、彼が此際に於ける動作の如何を觀察せば、強ち之れを知るに難しとせず、見よ幾千萬頭の蠶兒が就眠するに當りて、自ら求めて蔟桑の裏に潜まんとするものは啻に一頭だも之れあらざるを、然して箔縁に匍ひ出で、或は蠶簇の稈端反上せるものゝあらば、之れに攀ぢ若しくは既に就眠せる蠶兒の背上に登りて就眠せんとするもの多々あるにあらずや、由之觀之蠶兒の就眠に當りては清潔高燥にして氣温暖かなるを好喜し不潔にして卑濕なるは彼れの最も嫌忌する所たるを知るを得べけん此の見或は誤まれるや否やを知らずと雖も、余は從來此事の誤なきを信じ、就眠の取扱に際しては主として蠶座の清潔と濕氣の過剩ならざるとに注意し、彼の饒進社に於て專ら行へるボッチ眠みと稱する方法に從へり、今其方法の梗概を陳ぐれば、蠶兒將に眠期に迫り、其體色變ぜんとするに至らば、豫め眠裏扱用意として糠入を行ひ、糠上二回の給桑をなし、（此二回の給桑は平常より其量を增加す）後蠶兒を糠上の殘桑と共に別籠に移すに當り、之れを分割して、一塊の殘桑に蠶兒略十頭を留むるを度とし、點々塵上に配列す、此の時に至れば蠶兒は眠期愈々熟するを以て殘桑の上に居直るべし、斯くて殘桑の枯凋適度なるを見計ひ、又一回の給桑を行へば蠶兒は概ね就眠するに至るべし、然して數時間の後猶ほ眠みゝ後れたる蠶兒の幾分を散見すべきを以て、茲に又一回少量の給桑をなし、之れを止め桑とし、爾後外氣の劇しく蠶躰に觸るゝを避け温度の激變なからしめ、概ね起き揃ふを待ちて始めて飼食をなす、故に眠中蠶座は常に清潔にして蒸熱を釀すが如き憂なく、從つて彼れが衛生を害ふ等のことなく、眠起能く齊一にして頗る安全なること遠く平眠みの右に出づるを認む、されどもこの取扱ひ稍ゝ手數を要し、從て眠期に際し繁忙を極むるの嫌なき能はず、故に余は特に大眠に際し網眠みの方法可なるべきを想起し數年前より自家飼蠶の一部を割ひて之れを試みしにボッチ眠みに比ぶれは其手數を省略すること極めて多く、且つ其結果に於て差等あるを見さるを以て、爾後屢々之れを試み、遂に昨年度にありては飼蠶の全部を擧げて此の方法に據り取扱ひしに、其結果佳良にして且つ此際人夫を省くこと著しく、深く此方法の經濟上得策なるを覺れり、若し夫れ該網眠みの方法は如何にすべきや歟と云はゝ、蠶兒今や將に眠に就かんとする前に際し、先づ蠶座上に薄く糠糠を撒布し、其上に蠶網（茅網にて造れるもの）を布き後網上には枝桑を給與す、尤も此際與なる枝桑は成るべく小葉のものを宜しとし、其量尺坪（尺坪の蠶兒略一百頭）に對し凡七匁許にして平等に給與す、然るときは蠶兒は網上なる桑葉に登り來りて飽食すべし、斯くて適宜の時間を隔て、次回の給桑をなす、此際は前回に異り桑葉は幅凡五分長さ一寸餘なる短冊形に刻み、新楢葉柄等を簸き去り、其量凡を尺坪に對し五匁許を給與す此給桑を終り、少時間を經ば蠶兒は網上の殘桑及新楢等に匍ひ散りて、絲を吐き腹股を纏着し、茲に於て蠶網を擡げて別籠に移す斯くするときは網下の蔟桑蠶沙等は悉く之れを除去することを得て、新たに移せる別籠の蠶座は網上僅かに二回の殘桑を留むるのみなれば、極めて清潔にして加ふるに蠶簇と蠶兒とは網を以て隔てられ、殘桑の下邊は空氣自在に流通するが故に、蠶坐に濕潤或は腐敗

の氣を釀す等の患なし、而して別籠に移したる後は時機を見計ひ一回の給桑を行ふ、其量は前回より少く且つ其刻み歩合も稍短小なるを要す、この給桑を終れば蠶兒は概ね就眠するに至るべし　若し又此給桑の後數時間を經るも全部就眠に至らずして點々未眠蠶を認めなば更に又少量の給桑をなして止め桑となす、眠中の注意は前に述べたる所と異ならざれども、此際偶々霖雨等にて蠶坐濕潤に傾くの虞あるか、若しくは蠶沙多きに過ぐるの感あれば更らに新たに別籠を備へて、網の儘靜かに移して以て除沙を行ふにあり。

以上述べたる網眠みの方法は其取扱極めて簡便にして、加ふるに蠶兒の脫皮に際し些の困難を認めず、眠起能く整一にして絕へて彼れの衛生を害ふが如きことなきを認む、故に大眠期に於ける取扱は之れを通常の平眠みとなすに比すれば、蠶兒の衛生及び其他の諸點に於て遙かに有効にして、又余の從來行ひ來れるポッチ休みの方法に較ぶれば、其蠶兒に對するの注意は同一轍なるも、其操作の極めて平易簡單にして大に手數を省畧するは勿論、給桑の量も亦少量にして足り、籾糠の如きも其半量を費さずして可なる等、費用の點に於ても益する所多く、特に彼れが此際に於ける吐絲を切斷する等の憂なく、經濟衛生兩ながら讓る所なきが如く、而して蠶坐の常に清潔にして加ふるに防濕の旨に適ふて最も安全なる良法たるべきは深く信じて疑はざる所なり、幸に未だ此方法を用ひざるの士は乞ふ一歳試みて以て其是非を判定せられんことを、若し夫れ大眠期の取扱に就き他に良優の方法あらんには、垂教を賜はるに吝ならざらんことを、大方の諸賢に希望して止まざる所なり。

●本年蠶絲業界の豫占

大日本蠶絲會技藝委員　吉池慶正

諺に曰く當るも八卦當らざるも八卦と、吾人は寧かくの如き八卦の當らざらんことを望み、寧此の如き豫占を他言せざらんことを欲するも、一片の婆心之れを禁ずるもの能はざるを如何、吾人が占ふ所の本年蠶絲業界に於ける豫想は、半黑半白にして吉凶相半はすと雖も、動もすれば凶は吉を凌て半白の部分を侵蝕するの觀あり、是れ豈に蠶絲業界に採りて慶すべきの事ならんや、請ふ吾人をして忌憚なく之れを言はしめよ。

吉に屬する半面

(一)東洋に於ける島帝國と西洋に於ける島帝國との同盟新になり、東洋の天地を被覆したる暗雲は頓に消散し去り、世界に於ける人心に安堵の福音を傳へたり、茲に於て乎宇内の經濟界は一般に活氣を加へ、産業勃興の機運を現はし、從て絹布の需要多きを增すの傾向あり、是れ吉に屬する半面の一なり。

(二)米國に於ける農作物は數年來豐稔を呈し、國民の富力益多きを加へ、絹布の流行愈頻繁となり、之れを現今に鑑みて將來に推すも、洋々として春江を望むが如き慨あり、本邦蠶絲唯一の顧客たる米國にして此の如しとすれば、又本邦蠶絲業の前途も甚好望なるの觀あり、是れ吉に屬する半面の二なり。

(三)先年農商務省より蠶病消毒の訓令發せられし以來、官民共に其必要を喚起せる折柄、客歳夏期東西蠶業講習所は蠶病消毒の講習を行ひ、其他の府縣に於ても頻々として其類に倣へり、此蠶病消毒講習によりて技術者を增加せるの結果は、蠶病消毒の實行を多からしめたるは疑ふべからざる所なり、果して然らば其効果の幾分は本年に於ける育蠶期に顯はるゝに至るべきか、是れ吉に屬する半面の三なり。

(四)昨年に於ては氣象其他の關係により、蠁蛆の被害之れを前數年に比較すれば較減少せるを以て、豫想外に蠶種の製造額多かりしにより、蠶種の價格下廉なるのみならず、養蠶家は多數の蠶種中より隨意に良好なるものを選擇し得たるを以て、良種は好果を結ぶの類例を事實に現出すべきか、是れ吉に屬する半面の四なり、

(五)客歳に於ける米作良好にして收穫も亦豐饒を告げたり、從て米價も低廉を示し、之れに加ふるに米價を標準とせる雇傭賃銀の之れに追隨せるあり、又内地需要織物の不況を來せるものあれば、育蠶製絲の期に際し雇傭者の缺乏を歎ずるの憂尠か

らざるべきか、是れ吉に屬する牢面の五なり。

(六)一昨年来曾有なる絲價の下落に遭遇し、窮厄爲す所を知らざりし製絲家は、客年絲況の順調に邂逅し、囊裡自ら餘裕を生じたりと云ふ程には非ざるも、胸中逼迫せざるもの丶如く愁眉を展開せり、之を以て製絲期に際する諸般の設備違算なきに至るべきか、是れ吉に屬する牢面の六なり。

這は是れ本年蠶絲業界に於る喜ばしき吉相なりと雖も、他の牢面には恐るべき凶兆の潜めるを觀るべし。

凶に屬する牢面

(一)客年本邦に於ける春蠶は全國一般に不良なりしを以て、養蠶家は之れが失敗を挽回せんと欲し、或は夏蠶に秋蠶に將た四化蠶に幾數回の飼育をなせり、幾數回の青蠶決して不良の事にあらず、寧此方現今及び將來に於ける經濟上の趨勢に照らし勸奬するの要ありと雖も、未だ其法立たず組織成らざるに敢て之れを爲すは吾人其可なるを知らざるなり故を以て昨年に於て再三再四摘採伐截せられたる桑樹は、其枝梢の伸長甚不完全なるものあり、されば桑葉の收穫甚しき減額を來すべきか殊に蠶作不況の結果よりして養蠶家の經濟豐ならず、延て桑園に施肥するの量潤澤ならざるものあるに於ておや、彼れを思ひ是れを考ふれば桑葉の繁茂宜しからずして、價格の不廉なるは免るべからざるの數ならん、是れ凶に屬する牢面の一なり。

(二)前項の如く去年に於て幾數回の青蠶をなしたるとは事實なり然るに其夏秋蠶期は病毒の繁殖に最も適好なるの氣候なるを以て、蠶室蠶具に病毒の遺留潜伏せしめたるもの其數必ずや寡きにあらざるべし、吉の牢面三項に示せるが如く一方に於て蠶病消毒を施行せるもの多かりしや、疑なしと雖も、蠶病菌は夫れ以上に傳染を逞ふせざるや、之れを換言すれば蠶病消毒の未だ行屆かざるものあらざるや否や、若し是れありとすれば吉三項を抹殺し去るものにして、是れ又凶に屬する牢面の二として數へざるべからず。

(三)昨年蠶種製造額の多きことは吉四項に記せる所の如し、此多數の蠶種生産は勢養蠶家をして多量の蠶種を掃立てしむるの動機となるは免るべからざるの數なりとす、果して然らば桑葉、人夫其他の權衡を失し青蠶の結果は豐饒ならず、假令豐饒なりとなすも費用を要すること多く、經濟的事業として不利多きは睹易きの事實なり果して然らば吉四項を沒却し去るに至るべきか、是れ凶に屬する牢面の三なり。

(四)客秋以來婦女の業務として適好なる內地用織物業委靡として振はず、又他の工業も多くは躊躇逡巡の姿をなせるを以て、之れに要する勞働者は徒手遊食をなすもの多し、然るに一方に於て生絲は相應なる價格を以て販賣せられつ丶あり、養蠶家は之れを機とし、例年より多量の蠶種を掃立て養蠶をなすは推測し得らるゝ所なり、果して然らば其結果として蠶兒の餌料たる桑葉に不足を告げ、養蠶家自ら困難の境遇に陷るの虞なしとなさず、是れ凶屬すにる牢面の四なり。

(五)昨歲以來蠶絲は順潮に乘じ、從て製絲すれば從て販路せられ、價格こそ異常の珍價を現はさゞれども、其數量の多大に達せること開港以來未曾有の事に屬す、更に驕て製絲家の囊中如何と顧れば、原料の購入に機宜を惻し廉價の繭を買收したるものは少くも百斤七八十圓の純益ありし割合にして、資金の回收も亦迅速なりしにより、經濟界不況を敷せるの中に於て、製絲家間は比較的金融圓滑なるの態をなせり、是れ吉六項のある所以なり、然れども其裏面に於ては却て是れが爲に本年收繭期に際し、本業上の通弊たる繭購入の競爭を惹起するなきやや大に疑なき能はざる所なり、果して是れありとすれば吉六項消滅し去て除す所は弊害のみ、是れ凶に屬する牢面の五なり。

(六)本春に至り蠶絲市場は適當品拂底となり、春挽製絲の着荷を觀望しつ丶あるの狀況なるが、客年に於て賣售し終れる絲荷多きを以て、春挽製絲の數は案外に尠かるべし、果して然らば春來二三十圓方上向せる絲價は、更に一層の氣勢を添へ昂騰するの事實なきや、若し是れありとすれば新繭價格の標準は之れを以て樹立すべく、製絲家は是れが爲に非常に苦戰するに至るべし、是れ凶に屬する牢面の六なりとす。

此の如く臚列し來れば吉凶の項互に相半すと雖も、前にも謂へる如く凶は吉を凌て牢白の部分を侵蝕せ

んとするの傾向あり、如何となれば各頂を構成する所の要素解剖上の成蹟、凶は吉に比して甚有力なればなり、即ち桑樹の枝梢伸長惡しきにも拘らず蠶種掃立枚數の多からんとするが如き、現今絲價漸次昂騰を示すにより勢、繭の相場をして高からしむべきが如きは、殆んど免るべからざるの數に似たり、知らず養蠶家及び製絲家は如何なる方策を以て對應せんとするや、蓋し此間に處するの策單た一あるのみ、養蠶家は幾分蠶種の掃立數を控へ桑葉、家屋の廣狹、器具、人夫、其他との權衡を考へ、投機的の行爲を戒むべきこと、製絲家は繭購入の競爭を禁じて愼重の態度を取り、繭價格の躍進を告ぐるが如き拙策を演ぜざるゝ是なり、語に曰く禍を轉じて福となすと、幸にして當業者諸君吾人の非禮を咎ず、海量此諫言を容るゝあらば、本年蠶絲業界の泰平太白を擧ぐべきものありと雖も、事若し茲に出でずんば前程の暗憺たる測り知るべからざるものあらん、是れ茲に吾人は疾聲大呼して當業者諸君の猛省を煩らはさんとする所以なり、更に又吾人の豫占以外に屬するは霜害是なり、最近三四年間は幸に降霜の慘害を目睹せざるを以て、關東方面に於ける養蠶家は小康を保ちつゝありと雖も、若し一朝嚴霜襲到せんか、蠶業界に大恐荒を來すの虞なき能はず、吾人は猥りに杞憂を懷き不吉の言を陳ずるものにあらず、唯當業者に對して降霜豫防の設備を精ふせんことを奬め、天公に對しては敢て結霜を下して無辜の民を苦むるの惡戲を試むるなきを祈るものなり。

●東北地方の蠶業

（大日本蠶絲會第七回小集會演說）

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　本多岩次郎

私は東北地方蠶業と云ふことに就て一言御話致さうと思ひます、固より今日は御演說をなさる方が澤山ありますから、さう長く淸聽を瀆す譯にいきませぬ、僅の間淸聽を瀆したいと思ひます。

元來此蠶業と云ふものは御承知の通り日本に於きましては誠に必要なものであつて、誰でも口を開けば生絲は日本の國脈を繫ぐとか、或は一發千金の彈丸は蠶絲から固められて居るとか申しまして蠶絲業は

非常に重きを置かれて居る、此必要にして重きを置かれをる蠶絲業は今日如何なる狀態であるかと申しますと、普通農業から比ぶると非常に進步して居ると云ふ者があります、又蠶絲業の進步は實に長足のものであると云ふ者もあります、夫れに相違ない、去れども是れは表面上の觀察で裏面に入つて之を調査致しますと、まだ〳〵改良すべき點、發達せしむべき餘裕が澤山あるやうに見受けます。

元來普通作物に於ては北の方に適する作物もあり、又南の方に適して北の方には到底栽培が出來ない作物もある、即ち此地球の緯度に從つて作物が繁殖し若くは繁殖しないと云ふ區別がある、併ながら此蠶絲業の本となる所の桑の木と云ふものは何處の緯度に於ても生育する、日本國中北は北海道の隅から南は臺灣の端まで決して桑の栽培の出來ない所はない更に眼を放て世界に於ける桑樹の分布即ち如何なる緯度に於て能く栽培が出來るか、又發育が宜いかと云ふと、北緯十度より五十度の間に桑樹は分布されて居る、故に其間に位して居る地面であれば桑樹の生育しない所は無い、然るに其の間の緯度にある國土にて蠶絲業の盛んな所もあり、或は毫も蠶絲業の無い所もある、例せば日本國は北から南まで十七度と云ふ長い國である、其間は範圍內に這入つて居るから無論桑を栽培することが出來る、又蠶絲業も盛んに進みつゝあるのであります、然るに亞米利加の如きは同じ緯度に於てさうして桑の栽培も十分に出來て發育も十分であるが、經濟上の關係蠶絲業の發達を許さぬ事情があります、それは即人夫賃である養蠶の費用を要する點は人夫賃であつて外の業務と聊か揆を異にして居る、其人夫賃が亞米利加は非常に高いのである、日本の如きも人夫賃は漸々高くなつたが、まだ此位なら宜いけれども、向ふでは大概一週間に四弗である、即ち日本にすると一週間八圓と云ふ割合である、之を日本の貨幣に換算すれば一日一圓四十錢許になりませうか、此の如き次第であるから此の高き賃銀を仕拂ふべき人夫を使つて養蠶することは出來ない、其他色々關係もありますが、多くは人夫賃に依つて同じ桑が發育する所であつても蠶絲業が出來ないと云ふ區別があります。

それから日本に於きましては今御話した通り南から

北まで總て桑の栽培は出來ますが、此東北地方に於てはどうであるかと云ふことを段々考へて見ると、無論桑の栽培の出來ぬことは無い、卽ち桑樹生育の範圍に這入つて居る、從つて今日まで蠶業は漸を逐ふて段々發達して行く有樣である、所で此東北地方に於きましては殊に蠶業を發達させねばならぬ理由がある、と云ふのは此東北地方に於きまして農家の仕事をするのは御承知の通り春夏中でなければならぬ、之を換言すれば溫暖なる時期が短い、左樣な譯であるからしてどうしても働くべき時、卽ち夏の間桑葉の繁茂する時に於て十分勉强し十分働いて南の方で一人で働く所の事を一人半或は二人分働かねば一年中の生計を維持することが困難である、然るに今日の所では西南地方と比べて見ると餘ほど人間生活の程度が違つて東北地方が低い、卽ち物價が低い、又人夫賃も東北地方が低いのである、實際瀛車の中から見ても東北地方の農家と西南地方の農家と比較すれば西南地方の農家が餘ほど富んで居るやうに見受けられます、生活の度がどうしてもアチラの方が高まつて居ります、併ながら東北地方に於ても今日此程度で甘んじて居ることは出來ない、是から西南地方の如く生活程度の高まつて來る時期が來るだらうと思ひます、さう云ふ有樣でありますから此東北地方に於ては將來夏の期節に於て西南地方で働くよりも倍以上の働きをして、其收穫も西南地方で八箇月位に收むるものも東北地方では四箇月若くは五箇月の間に收むる位の考を持つて事に當らなければならぬ、今日普通農業をやる上に付ても一毛一作位が出來ない所も西南に行けば二毛作若くは三毛作も出來る、それ故コチラでは一毛作でそれと同樣の働きをして同じ收穫を得る方法を設けねばならぬ、其同じ方法をやるには所謂普通農業の副業をやらなければならぬ、其副業に就ては色々ありませうが、今日の場合私は喋々するまでもなく此蠶絲業を措いて其上に出る副業は無いと思ひます、それでありますからして此養蠶業を先づ第一の副業とせねばならぬ、所で此養蠶業を副業とする爲に今日より澤山な繭を拵へれば其販路に於て差し支がゆる事がなきや否やは一つの問題になつて來る、此販路と云ふことに付ては私は種々調査も致し、又色々の人に就て聞きましたが、今日の倍になつても三倍になつても販路には少しも差支ないと云ふことを確めてあります、今日に於ても此繭の產額を倍にして製絲家の數を此儘にして置ても差支ない、今日の製絲家は一釜に對して六貫目の生絲を拵へるに過ぎない、之を換言すれば六貫匁の生絲を造るだけの繭しか養蠶家は作つて供給せぬのである、それで伊佛の方を能く調査して見ると、一人一釜に對して丁度十六貫目の生絲を製造する有樣である、卽ち今日の日本に比べますと一釜が二倍以上の働きを致して居ります、それであるから日本の製絲家は假に二倍だけの働きをするとしても現今に於ける繭の產額を二倍にして決して其製造に困難することがない、又出來ませした製品の販賣に於てドウかと云ふと、是亦少しも憂ふることはない、其憂ひのないことは人間社會の常態としてどうしても抑制することが出來ない、それで國が野蠻から漸々開明に進むに從つて絹織物の消費高が段々殖て來るのである、現に露西亞の如きは近年の統計に依つて見ると、毎年輸入生絲は殖て來て居る、其殖て來て居るのは獨り日本から行く所の生絲のみならず、支那から行く所の生絲も亦非常に殖て居る有樣である、露西亞は御承知の通り非常に廣い國でありますから絹織工業が盛となり生絲を消費すること多きに至つたならば我國の產額を三倍にしても到底向ふの需用に應ずることは出來ない位であらうと思ひます、故に今日生絲を幾ら拵へた所で販路に困難すると云ふことはない、從つて繭を拵へても其繭の捌途が無いことはない、それ故今日の場合に於ては生絲の原料となる所の繭を除計拵へることが日本に於て最も必要となつて居るのであります、其繭を餘計拵へることに付ては手段があるかと云ふと、今日の所は養蠶を普及させるより外に仕方が無い、此養蠶を普及するに付ては豫め五項目の要素が御座ります、其五項目の第一は桑である、それから其次は蠶種である、次は蠶室、次は人夫、次は飼育である、此五つのものが相俟つて始めて養蠶を營むことが出來るのであるから此要素を使用する程度によりて蠶業が發達する譯であるから此點に付ては十分注意せ

ねばならぬ、で此五つの項目に付ては本縣蠶業顧問の練木さんから屢々御講話がありまして十分御承知であらうと思ひますが、話の順序としてチョッと御話を致します。

此桑と云ふものを蠶に食はせる場合に於ては誰も彼も桑でさへあれば差支ない、なんでも桑を用ゐさへすれば出來るやうな考を持つて蠶を飼つて居る者が隨分ありますが、此點に就きましては餘ほど注意せねばならぬことであります、桑質の善惡に依つて、餘ほど蠶の發育に關係する、從つて出來た所の繭にも良否の區別がある、それ故桑の質は餘ほど注意せねばならぬ、其桑の質を注意するの條條は、先づ第一に種類を選び、肥培の法に注意する、此二項目は良い桑を得るに付て最も必要である、今日までは桑は習慣として一種若くは二種位を以て掃立てから終りまで飼つて居る、即ち多くは晩桑を使つたが、近頃は早桑を使ひます、我國に於てはどうしても早中晩の三種を植附けて置かねばならぬ、然るに支那にしても歐羅巴にしても桑の種類は殆ど一つと言つて宜い位である、支那に於て早桑は火桑と云ふのであります、其次の桑は魯桑とか湖桑とか云ふのである、それからモウ一つの種類は荆桑と云ふのであります、其三つしか無い、此魯桑と湖桑は同じものである、それから其中の火桑は早桑である、是は湖桑より四五日早い、此早桑を使うものは甚だ少い、先づ晩桑を使う所は大きな部落に於て極く少數の人が使ひます、又此荆桑と云ふのは實が非常に能く出來る、其實を取る爲に栽培する、即ち桑苗屋が栽培してそれに魯桑などの枝を接いで桑苗を拵へる、此三つの種類よりないからして普通養蠶家は此魯桑を以て一餘から上簇まで飼つて居る、それなら歐羅巴の桑はドウかと云ふと、歐羅巴は五種類許あります、其中モーラサスニグラ、モーラスアルバ、モーラスルーブラの三つが重もに貴ばれてある、伊太利佛蘭西などでは此三つは同じ種類であると言つて居る、此三つの種類は發芽も殆ど同じである、それを以て蠶を飼うから始めから終りまで同じ都合である、然るに日本に於ては蠶を飼うにドウしても早中晩の三つの區別をして栽培せねばならぬ、なぜ日本に於ては早中晩の區別をせねばならぬか、支那伊太利は差支ない

かと言へば、日本の桑の性質と云ふものは最初芽が出てさうして葉が開くに從ひ滋養分が或る程度から減つて來て居る即ち滋養分とは蛋白質とか脂肪とか或は澱粉と云ふやうなものである日本の桑の性質は急に其滋養分が減じて來るものであるから滋養分の豐である時期は極めて短い、然るに佛蘭西伊太利支那などの桑を栽培して見ると、滋養分が出て其滋養分が長く一定の量を保つて居つて漸々減じて來る有樣である、それと反對に日本の桑に滋養分が出て其滋養分が減ずると同時に纖緯が餘計出る、此纖緯は蠶が食つても少しも消化しないで糞になる、それは牛とか馬とか云ふものは纖緯も矢張り消化して手足を動かす働きの一部分に供する、然るに桑に限つては纖緯は蠶の身躰に這入らずして糞になる、それであるから佛蘭西伊太利あたりでは同一の桑葉を一餘から五餘まで飼つて差支ない、日本は從來ヤセ桑を以て蠶を飼つて居る所が多いが、一餘二餘までは宜い、されども三餘四餘になると纖緯が殖て粗硬になつて蠶にやつても不利益である、早桑は蠶の一二餘頃は芽が出ない、さう云ふ譯であるから日本の桑はどうしても早中晩と別口に植て置かねばならぬ、其割合は是は諸君も御承知の通り二三五の割合で宜い、二は早桑三は中桑五は晩桑と云ふ割合で普通養蠶家はそれを標準として植付ければなりませぬ、尤も今日ある所の桑園を潰してまで早桑を植ると云ふやうなことではない、將來蠶業の發達するに從つて桑も漸々植ゑねばならぬからさう云ふ場合に於て早桑を適度に植ゑ中桑も植えるやうにして、丁度二三五の割合を保たしむるのであります、今申上げたのは晩桑の多くあつたる場合ですが、其地方により早桑が多いか、中桑が多いときは皆其順序で改良を要する次第であります。

それから是は此地方のみでなく、外にもありますが、自分は少しも桑園を持たずに人の桑園を當てにして蠶を飼う者です、是は甚だ不都合千萬の話で食物なくして生育する動物はありません、尤も他人の桑葉を當てにして居るに違ひないが、若も蠶が非常に豐作にして他人の桑は餘ないと云ふ時に非常に困難を嘗め高い桑を買はねばならぬ、それがいやなら蠶を水葬するか土葬せねばならぬ、それであるから蠶

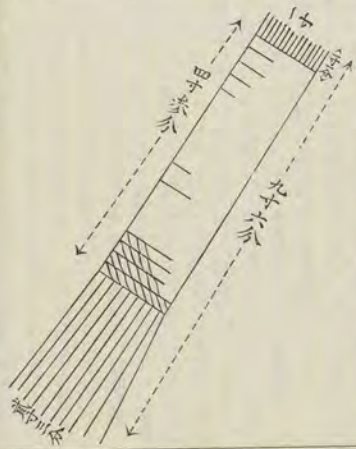
を養ふ丈けの桑は自分が持つて居らねばなりませぬ、どうぞ桑畑を所持せられぬ諸君は今に於て適當なる桑畑を開いて是だけ桑園があるから是だけの蠶を掃立てゝ宜いと云ふチヤンと始めから割合を取つて養蠶に掛らるゝことを希望致します、往々養蠶は投機の事業である、山師の仕事であると云ふ非難を受けますのは、前御話し致した一枚の桑葉もなしに多數の養蠶をなすものがあるからです、養蠶は決して投機事業でない、山師の仕事でない、けれども順序を立てやらぬとさう云ふ非難を受けてもそれに對して何とも答へることが出來ませぬ、桑は此位にして置きます。（未完）

●清國器械製絲場に於ける製絲法一班（承前）

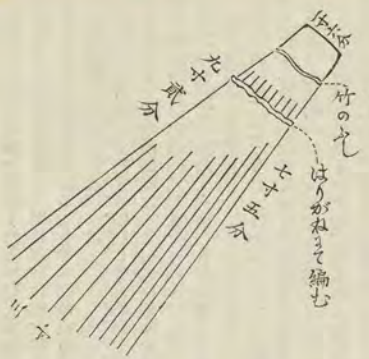
大日本蠶絲會技師　山本竹藏

撚掛裝置に至ては更に其撚式を見ることなくして悉く鼓車式卽ちタンヂル式なり、而して其鼓車の取り付け方等は更に本邦に類例なきものもあり、概して皆撚は強く掛かる所の構造なりし。

繰絲器械に附屬せる器具は水壺、揚り繭入れ、金杓子、繭掬ひ、蛹箱、索緒箒等なり、此繭掬ひは彼地にて竹杪と稱し、竹を鳥翼形に切り更に一端を細く割り（凡そ十八內外に分割せり）たるものにして、繰絲鍋中に沈める繭を掬ひ上ぐる時に使用するものなり、左圖の如し。



又索緒箒は歐洲より取り寄せたる刈萱に似たる灌木の根にして、中部を綿絲にて縛したり、左圖の如し。



此他竹箸を用ゐ居れる所もありし。

大甕の回轉數は一分間六十八位より百位に至る、最も多く用ふる數は八十四回轉なり。

繰絲法

（一）煮繭　煮繭鍋の湯面は上部より三寸位の下に保ち先づ蒸氣を通じて適當の溫度に至らしめたるときは、蒸氣を止め繭一握を投じ、索緒箒にて押し沈むるが如くして衝き回はすこと約三十秒とす、次で落緒繭を此上に投じ、索緒箒にて間斷なく鍋中に衝き廻すこと約二分半乃至三分位なるを普通とす、但し旗昌絲廠にての操作は殆んど同一なれども、繭を衝かずして其側面を撫でゝ押し廻すを見たり、支那語に此工程を打盆といふ、盆は鍋の義にして鍋の中をタヽクの意味なり、眞に適切の命名をなしたるものといふべし、蓋し此工程は繭を煮るにはあらずして湯を浸潤せしめつゝ索緒するものなり、唯彼が如き繰解佳良なる繭を用ひて此の如き粗暴なる取扱を爲すは憫笑に堪へざる所とす。

煮湯の溫度は某所にて試驗せし所に據れば、最高二百〇九度最低百八十七度なりしも大抵二百二三度より高き事は稀なるものゝ如し、煮湯は概して

多少濁れるを常とす。

斯くて所謂煮繭と共に索緒を爲し得たるときは、金杓子にて掬ひ上げ繰絲工女に渡すものとす。

(二)繰絲　索緒せる繭を受取りたる繰絲工女は二三回粗抄りをなしたるまゝ、別に叮嚀に緒を抄ることなく直ちに接緒し始むること、本邦の或る地方に於る粗雜なる製絲法と同一なり。

接緒は總て指頭にてなすものにして接緒器を用ふるものなし、唯旗昌絲廠に於て舊式接緒器を裝置せる試驗的繰絲器械數窓を見たるのみ、而して其指頭の接緒法は極めて拙劣にして切端長き絲縷を投付するものとす。

撚は極めて僅に之を掛けたるのみにして、其數百以上にも昇るものは稀なりと認めたり、或る工場にて掛けたる撚の數を改めたるに僅々三十なりし蓋し是等の事には餘り注意せざるものゝ如し。

絲條の切斷せし場合に之を結び繋ぎたるときは、其結繋端は指頭にて切り敢て齒にて嚙み切ることなし。

繰絲湯は稀に淸く保てるものあれども、多くは濁り勝なり。

湯の溫度は百四五十度位なりし工場もあれども、百九十度位の高溫度ならしめたる工場もありし。

纖度は孰れも重きを置くものゝ如く或る工場に在ては繰絲臺一臺毎に左の如き小き指揮券を渡しあるを見たり。

紹興大繭
$^{13}/_{15}$
$^{3}/_{4}$　$^{4}/_{2}$

是れは紹興產の大巢繭にして目的纖度は$^{13}/_{15}$即ち十四デニール中なり、繭絲の接け合はせは$^{3}/_{4}$ $^{4}/_{2}$等の文字にて示し、薄皮何個厚皮何個にて繰絲すべしの意なり。

斯の如くにして一簍の生絲を繰絲し終るときは繰絲工女自から緒留及び力絲を掛け直ちに簍より外づし、束裝室に備へ付けある絲掛臺に持ち行き自己の番號の絲掛に掛け置くものとす。

力絲は皆絹絲にして種々なる色に染めたるものを用ゐ、其力絲の色によりて一等、二等、三等等の區別をなせる工場もあり、而して此力絲は一ヶ所に施すを常とすれとも稀に二ヶ所に施せるも見受たり、皆丸掛にして上下の緒と此力絲と併せ結ぶものなり。

玆に奇なるは繰絲工女が簍より絲を外づす時間は何時なりやといふ事是なり、予は十數ヶ所の工場に於て參觀中此の絲を外づす場合に遭遇せしは一ヶ所のみにして、前記の手續きも全く此一ヶ所に於て見たる所を記したるのみ。

而して其見たる所の工場の方法に據り他を類推するに、淸國に於ける製絲場の絲を簍より外づす時間は午餐の爲め工場を去るときと、薄暮終業して工場を去るときとの二回に一定せるものゝ如し。

蓋し他の工場にて是を見る能はざりしは、予が參觀は午餐及び終業の際の如き混雜の場合は遠慮して工場を避けたるに由るものゝ如し。

今予の觀察にして誤りなき時は同國工場に於ては繭によりて緒數と回轉數とを加減し一日の繰絲額を概定し居るものゝ如し、即ち六緒繰なれば一總十匁とすれば午餐迄に六十匁を繰製し、午後終業迄に又六十匁を得、通計約百二十匁繰製し得るの類なり、素より工女の技倆によりて其繰絲額に多少の差あるべきも、同國に於ける繭の繰解佳良なるは實に本邦人の夢想し能はざる所にして、見渡せる所にても簍の休むこと極めて稀なれば存外に工程に軒輊を生ずる少なきものなるべし。

蓋し繭の繰解佳良なるの甚しきや一列の各簍皆回轉して、更に休止せるを見ざる場合あり、十簍中に於て三簍の休止せるを見るは極めて稀なる事に屬す、尤も是は煮繭分業式なると、一緒切斷して之を結び繋ぐ場合にも愈々結び繋ぐ迄は簍の回轉を休止することなきを常とするにも由るものとす。

生絲檢査

束裝室に於ける絲掛臺は硝子障子にて作られたる箱內に在るもあり、或は裸出せるもあり、而して絲掛臺の在る所は樣式は種々なれども皆必ず乾燥暖管を裝置せるを常とす。

此絲掛臺は蜈蚣形に小桿を左右に支出し、小桿の數

は繰絲工女の數と一致せり。

絲掛臺に掛けられたる絲は一々皆肉眼檢査を爲し纖度不齊と認めたるものは直ちに檢尺器に卷き取りて檢査するものなり。

（未完）

蠶種製造に就て

大日本蠶絲會
技師委員　農學士　須田金之助

本邦の蠶業は有望有利國家の一大富源にして苟も籍を實業界に置くものゝ專心一意大に務むべき筈のものである、見よ桑園段別既に三十萬餘町歩に達し全耕作地の一割六分以上を占め、繭の產額亦二百七十五萬餘石に達す、而して生絲の生產額百七十五萬貫餘に達し年々增加の傾向あり、其內外國に輸出するは凡そ五割內外にして、其價格たるや四千四百六十五萬餘圓、外國輸出品中之に比敵するものなきは我邦人の凡て之を稱賛する所以である、然れども此生絲產出たる我國のみならず支那、佛蘭西、伊太利等を始めとして土耳其、露西亞、印度等何れも多少の產額あらざるなく、支那の如きは其產額の點に於て到底我國の及ぶ所でない、佛蘭西、伊太利等は又其品質に於て我の企及するを得ざるや遠い、是等は誠に余等の遺憾とする所である、蓋し該蠶業たるや其範圍甚だ廣く葡萄の繁殖する所にては何處にても之を行ふを得ると云ふ位であるから、將來とても現今の如くであるとは限らない或は益々傳播するやも計られない、否其覺悟にて我養蠶家も執業するを望むのである、既に亞米利加にても大計畫をなして居る、彼支那の如きは現今は繭若くは生絲の產額に於て我に優り品質に於て我に劣るが故に、歐洲米國等にては我國絲を要する多きも既に上海にて出來る或る生絲の如きは歐洲の優等絲たるを得るとのことである、萬一支那蠶業界の改進でも起るものならば本邦蠶業界に對して由々敷大事なりと云はなければならない、今より其覺悟を以て大に前進するに非ずんば或は後へに蹉若たらざるを得ないのであらう。

如何にして我蠶業を經營すべきやと云ふに出來る丈け經濟的に即ち少費多產的に仕上げ、且つ善良なる絲を出して出來得る限り廉價に市場に上すに在る、既に我蠶業は一國私有のものにあらずして對外的のもの、なるを知らば、彼等と競爭せんが爲めには又此の如くする止むを得ざることである、繭を多量に生產し生絲を多額に產出するに至らば其價格亦低廉に赴くべきは是れ經濟上の狀態又如何とも爲す能はざる所である、我國一昨年來米價の騰貴に由て昨年の桑園段別の如き一昨年に比して大に減じて居る、是れ桑樹を引拔きて米田を作れるに由る、佛國に於ても繭の相場大に下落し到底其騰貴を豫想するを得ざるの理由を以て、飼育者は失望落膽の結果桑樹を拔取り葡萄を植ゆるに至り、ヴァルの蠶種同業組合にては蠶種の生產を著しく減ぜんとを決議したと云ふのである、此を以て我國の蠶業も海外諸國に對し出來得る限り廉價に仕上るとは最も必要なる譯である、唯々廉價のみでなく良好なる絲を出さなくてはならぬ、今廉價に仕上ぐるとは決して粗末なる生絲を意味するのでなく、上等なる絲を產出して比較的少費にて仕上るを云ふのである、而して桑樹栽培家のみならず養蠶家や製絲家も共に大に茲に注意しなければならぬ、假令蠶業は國家的實業、富國的生產なりとて奬勵するも、各自の利益なきに於ては蓋し其効果少ないのである。

今や我蠶業界を漸次改良の域に進ましむるものは誰の責任なるやと問はゞ先蠶種製造家其人なりと云はなければならない、蠶種は其根本であるから其根本を改進せしめて始めて其目的を達するのである、現今社會の事物一として科學的の制裁を受けざるものはない、今後益科學的の學問進歩して事々物々闡明せられざるものなきに至らん、余等も此科學的原理を應用して益々蠶業の改進を謀り、百尺竿頭一歩を進めて世界に雄飛し他の蠶業國をして頭角を出さしめざる樣に奮勵すべきは當然である、既に海外諸國に於ても多く益蟲研究とか、又は蠶業試驗場とか、又は斯業に關する學校を起して斯業の智識を擴張するのみならず、又其改良に資する所多々なるは余等の頗る喜ぶ所である、就ては我蠶業に從事するものも大に科學を應用して迅速に改良に資せざるべからざる次第である、偖て又科學應用を論ずるに先ち茲に一言述べざるべからざるものあり、即ち本論に於て蠶種製造と標題を掲げたる次第である、爭て重松農學士蠶種製造なる語に就てと題し一篇の論文を大

日本蠶絲會報に掲載せられたり、其要に曰く製造なる語は天產物に人工を加へて其形を變じ、若くは其內に含有する或物質を抽出し、若くは二つ以上の異なりたる物質を調合して一物となすことを意味するものであると云ふにある、余輩も此意見に就ては同意を表する所で十數年以前より既に製造なる語の不條理なることを往々數多の人士に話せることありし、今や重松學士に由て蠶種生產なる語を唱道せられ、吾人も亦之れを更に二三の人に紹介したることありき、左れど此處に其製造なる語を殊に掲げて讀者に見えんとするは亦一の理由あつて存する次第である、即ち蠶種製造なる語は佛蘭西に於ては grainage 若くは production de la graine 即ち蠶種生產として用ゐるは重松氏の言の如し、左れど又蠶種製造と同意の字を用ゐざるに非らず、余は某雜誌に於て fabrication de la graine なる語を見たり、此 fabrication なる字は所謂製造の意にして action de faire certains ouvrages suivant les procédés d'un art mécanique 即ち或る器械的方法に由て人工を加へ製作するの意である、彼に於ても尙製造なる語を用ゐるは抑も所以あることならん

素より製造なる字義を文字通り literally に解釋すれば實に妙に聞へ見へもすべし、若し之を轉義 figuratively に用ゐたりとすれば更に怪むに足らざるべく、蠶蛾にして放置すれば何處にも產卵し市場に供するを得ざるが故に、人工を以て之を種紙に產附せしめ蠶種を製造したりとして販賣せるより起りたるものならん、然れども蠶卵は良好なるものも劣惡なるものも自由に生產し得るが故に、余輩の玆に製造と云ふは單に生產の意義のみならず、之には人工を加へて良好なる蠶種製造の意を含有せしめんとす、素より形を變ずるにあらざるも撰擇に由りて之を行ふなり、左れば蠶種にも人工を加へ充分に意を用ゐ、單に繭のみならず蟲の內より注意せざるべからざるは論を待たざる所である、我蠶種製造家は蠶蛾でさへあれば如何なるものにても蠶卵を生產するものなりと信じ、更に製造なる字義に注意せず撰擇を忽諸に附するもの甚だ多きが如し、玆を以て舊來慣用し來れる製造なる語に意氣を附して一般製種家の注意を促すのである。

蠶種を製造せんとするには大に注意を要すべきことである、余輩の玆に製種家を注意する事は蠶兒若くは繭若くは蛾等の選擇に關する製種に就ての注意のみに止まるに非ず、他に幾多の條件あれども一々之を說明するは餘り煩雜に流るの恐あるを以て、玆に必要不可欠條件にして而も特に注意するものを開陳して製種家の參考に資するのである、即ち其選擇と云ふは動物學の原理に基因するのである。

第一生產物に求むる所の性質を有効なる選擇に由り生產者を以て決することである、此等の性質は子孫に於て發揮し遺傳に由て傳ふるの感性を有する潛勢力を得るのである。

第二雌蛾及び雄蛾は生產者として同樣なるものとするときは同等の遺傳力を有するものである。

第三精選の或る個躰にして非常なる高度に吾人の求むる性質を有するものなるときは、此等個躰の既に獲得せる良好なる性質を滅却し易き始原的性質を有するものとの交尾を避けんが爲めに別離し置くのである。

此の如き原理に由て選擇するのであるが吾人の蠶兒に對して求むる特質は左の如くである。

一種類の壯健なること
二生絲の量多きこと
三絹絲は善良なる性質を有すること

種類の壯健なるを選定するには病源たる微粒子、軟化病、白殭病及び膿病等にて浸されたる蠶兒を棄て最も活潑なる壯健なるものゝみを選擇し、其他のものを蠶種生產用より取り除くことである、今佛國絹業雜誌に記載せるマノスク養蠶試驗場長ブランヂ氏の實行せる所を玆に紹介せん。

生絲の量多きものを選ばんには豫め繭中より玉繭、繻子繭、粗大繭、着色繭等を除き良好なる繭の中より百目若くは二百目を秤量し、其內に含有する繭の個數を以て重量を除せば各個に對する平均重量を得、例へば百匁中に二百個ありとすれば一個平均五分宛なり、次に精密なる秤量器を以て各個に繭を秤り五分以下のもの即ち雄繭は一の箱に入れ、五分以上のもの即ち雌繭は又他の箱に入るべし、而して一々其目方を記入し置くべし、

秤量し終れば各繭を剪刀若くは小刀にて注意して繭を開らき其の蛹を出し、各繭殼の重量を秤り再たび

其の位置に蛹を入れ出來得る限り精密に繭殼の切開せる部分を細針若くは環護讃を以て緊縮し置くにあり。

此の如せば繭殼の重量を知るを得るが故に、其内繭絲の最多量なるものより順次四十乃至五十パルセントを繁殖用として撰擇せば其改良は翌年より著しからん、然れども此撰擇をして十年間繼續するか若くは又二十パルセント宛撰擇せしめば、其改良たる尚一層顯著なるべきことは明である。

以上は絲量の多きものに就ての撰擇なれども又絲質に就ても豫め繭の際に行はなければならない、而して蛾産卵し終れば其蛾を取り置き其壽命の長きものは卵子も亦健全である、是れも實行せば必ず良結果を得ることならん。

偖て余輩が以上述べたるが如く凡て生産物に求むる所の性質は遺傳するものである、左れば有効なる撰擇に由りて余等の要求する丈の充分良好なるものを撰ばなければならない、而して生産者としては雌雄共に同樣の勢力を有するものなれば、雌繭雄繭共に同樣の撰擇をなさざるべからず、彼の野蠶の雄と家蠶の雌と交尾せしめたるときは、野蠶の勢力強きを以て野蠶に類似するもの多きも、普通家蠶と家蠶に於て其雌雄共に同樣にして同樣の狀況に在る者なれば、同等の遺傳力あるものと見て差支ない、只々一年にても其撰擇の方法宜敷を得ば其結果著しからん、去れども翌年より又々劣等なる繭より出でたる蛾を以て製種をなすに於ては、折角獲得せる良性質を脱却し水泡に歸するに相違ない、而して此等の撰擇は決して一朝一夕に所要の彼岸に達するものに非ざれば、根氣強くなければならない、否製種家の如きは素より斯くなすべき筈である、他人に依頼して顧盼せざるが如きは、誠に製種家の義務を盡さないと曰はなければならない、本邦蠶種檢査法ありて其成績良好ならざるものは之を否認する事となり居るも、法律は一班を規定したるものなれば、製種家自身にて充分注意に注意を加へ、奮勵一番製種業に熱中し本邦の原種を改良し、本邦をして世界唯一の蠶業國たらしめられんこと希望の至りに堪へず、聊か一言を呈するのである。

◉雜錄 (Essais et faits divers) (Miscellaneous)

◉美蘭生絲檢査所蠶絲試驗報告

（轉載）

繭の速成乾燥に就て

一千八百九十五年第三回蠶業講究會をキユヂヨに開設するや當時數多の演說者は孰れも乾燥繭の商業上に於ける利益と其乾燥法を全國一般の成繭に普及するの須要なることを唱道せり。

現時の狀況を見るに生産者に於ては一意蠶蛾の羽化を恐るゝの餘り假令當時の價格を以て自から滿足せざることありと雖も可成速に其繭を賣却せんとする傾向あり製絲家に在りても亦夫れが爲め繭の良否を鑑撰するの遑なく多少投機的危險を犯すの嫌あるも數週の短時日間に於て一年の消費物を購求するの止むを得ざるに至れり

情況此の如きを以てジユー、グラメール、ユス、ヂユビニー、シカルヂー諸氏より講究會に提出せし報告に因り之れを看るも殺蛹法に充分の研究を加へんとする希望の如何に剴切なるか又業務最も完整なる私立若くは公立乾燥場の創設を歡迎すること如何に熱心なるかを證するに足るべし、是れより先き一千八百八十四年第一回講習會をチュランに開設せし當時に在ても亦既に其創立の緊急なることを縷述せしものありと雖も經濟上に於ける事由と使用器機の不備及び繭を速成乾燥せしむるときは其色澤に變化を生ずるなきかの疑問とに依り猶ほ未だ輙かに之を實施するの運に至らざりき

加旃繭の色澤を變化せしむるの容易なると繰絲中絲量の減少を招きしとは偏に乾燥法の完全ならざるを證するに足るべきが故に倍々乾燥を速かならしむるの急務なるを感ぜり

乾燥問題に關する區々の異說を解決せんと欲せば只左の事實を擧ぐるを以て足れりとす曰く完整の乾燥を行ふときは蛹身は其羽化期前に於て既に全く化成を遂げ諸母尼亞質及び不定質揮發物の如きは一定の

溫度に遇ひ總て排散するを得るものなりと

博士エフ、アルデルリニー氏の實驗に因れば各地の產出に係る水分不同の繭を攝氏百度乃至百十度の空氣にて乾燥したりしに百分の〇、一六二乃至〇、四六七の諳母尼亞量を發散したり次で猶ほ之れを百二十度以上に昇騰せしむるに及び其繭は忽ち色を變じ且外面に脂肪狀を呈せり之れに由て是れを見るときは當初實行せし殺蛹法の不完全なるより生ずる所の汚痕たるを疑はざるなり

踊體に包含する諳母尼亞鹽類は洵に腐蝕し易き性質を有するが故に繭を乾燥するには最初は務めて溫度を低降して徐々水蒸氣を排散し且揮發物排散の爲め乾燥場は空氣の疏通を速かにし新舊の代謝を滑かならしむるの地なるを要す而して此揮發物は若し繭の表面に凝着し若くは細纖毛狀をなして之れに附着するときは忽ち繭を變色せしむるの媒たるものなり故に乾燥法の不完全なるより繭の變色を容易ならしむるの結果施て害を其蛋白質物にも及ぼすものとするときは從來既に同一生產物の上に適用して効果を得たる準備を斷行するは實に須要なるべし是れ新舊の更換最も滑かなる空氣を利用する適法の溫乾法を採擇するの利を勸告して已まざる所以にして此法に依るときは其空氣の溫度は一時に騰昇せしむるなり漸次其度を高め以て充分の乾燥を遂げしむるを肝要とす又極めて新鮮なる繭に對しては當初先づ冷かなる空氣に接せしむるを貴ぶが故に其溫度は初め增進せる熱度に遇ふも毫も傷害を釀すの患なき殆んど乾燥の終度に達せる繭に觸れしめ而して後徐々生繭に及ぼすべき方法を採らざるべからず

此乾燥法は啻に繭のみならず麥麴及其他化性物の乾燥にも亦博く之れを適用するものにして其の方法に從ひ乾燥すべき繭は密閉せる室內に裝置する數量の框付籠に並列し又は底に數小孔ある蒸箱に堆積し若くは袋にて燥すことを得べし

右の場合に於ける何れの方法に依るも旋風器にて交換する溫氣は繭の出入口に相對する方面より流通せしむるを要し且つ溫氣は充分に乾燥場內の繭に透徹せしめたる後にあらざれば之を放散すべからず

又步廊付乾燥場に於ても亦前項の乾燥法を用ひ特に運搬車を裝置せり此の運搬車は溫氣の注送口に相對する方面より線路を廻轉して數層の框付蒸籠を運送するの用に供す而して其外猶ほ數多の小運搬車ありて新鮮繭を滿載し一方より場內に入り再び乾燥せる繭を載積して溫氣注送口より出づるの準備を爲す

此の乾燥法に於て得る所の利益は第一、繭は迅速なる空氣の流通を受け且つ漸次其度を高め遂に一定の熱點に達すべき溫度に因りて自然に乾燥すること第二、溫度は蒸氣に依るが故に不虞の過失の爲め最も昇騰せるものを以て猶ほ濕氣ある繭を乾燥するが如き危險を避くること是は炭火爐を使用し其監督に周到の注意を加ふるなくして之れを忽緒に附するの場合には每に免かるべからざる所のものなり

伊太利國に於て初めて此乾燥場を創設せしは工師アラジア氏を以て其嚆矢とす一千八百七十五年以來氏はヴェルズチロー（ピエモン州）製絲場內に四ヶ所の乾燥場を建設したりしが孰れも良好の成蹟を得たり一千八百九十六年フランセスマ、ベレッタ氏がプレスシアに設立せし乾燥場の如きは殊に顯著なるものにして三百五十二箇の鐵格子を導溫管にて暖めたる三十二の乾燥室に配置し且日々七千キログラームの繭を乾燥するに毫も支障あることなし蠶業協會の囑託に依り此繭に就き攝氏七十度乃至七十五度の溫度を以て二十四時間の試驗をなしたりしに毫も變色を來すが如き欠點なきを證したり

輓近の實驗に看るに適度の空氣流通に因るあらば假令溫度を攝氏九十度乃至百度に上騰するも毫も繭絲質を害するなきを證したり

各別に繰りたる繭絲の二百五十回檢力器試驗に於ける結果左の如し

正量檢査したる繭

	空氣に於て	乾燥場に於て（エフ、ベレッタ）
伸度	一三六、三一（ミリメートル）	一四一、三六（ミリメートル）
强力（修正）(2)	三〇、二〇（グラーム）	三一、六八（グラーム）

綫度 $^{10}/_{12}$ の生絲に對して

伸度	一九二、三二（ミリメートル）	二六、一一（グラーム）
强力（修正）(2)	一九二、八三（ミリメートル）	二七、九七（グラーム）

(2)「グラーム」を以て秤る强力は絲長一「メートル」絲量一「ミリグラーム」なり

此乾燥場の設備及び實施に就ては殊に其費用多大なるを免れざるが如し故に遂に壓縮空氣に依る乾燥法

を採用するの必要なるを感ずるに至れり其方法は機關に伴ふ出費を減少するのみならず燃料にも亦大に節約を加るを得るものなり

壓縮法に採り實際施行せし乾燥試驗にして記憶に存せるもの亦少しとせず其中特書の價あるものをギュスターブ、チユブレー、ド、ペーロー（ピエモン州）氏の製絲場及びフレール、ペレグリーノー會社の所有に係る乾燥場に於ける試驗とす而してペリグリノー會社の乾燥場はフアヴレー教授の計畫に基き獸毛を乾燥する所なるも亦溫氣の流通に依り蠶繭の乾燥をも行ふ所とす曾て此等の試驗場に參會して親しく乾燥せし繭を實見したりしに其繭は自然空氣流通法に依る試驗に於て攝氏七十度乃至七十二度にて乾燥したる繭に比較し汚痕甚だ薄少なることを證したり繰絲に於ける絲量も亦比較的富饒なりとす然れども工師アラジア氏の乾燥場はフレール、ペレグリノー會社の乾燥場に於けるが如く孰れも火爐に石炭若くはコークスを使用して空氣を溫暖ならしむるが故に若し監督者にして其注意を忽にするあらば乍ち其空氣を適度外に激熱ならしむるの恐れなしとせず是れ蒸氣爐の使用を勸誘して已まざる所以なり若し夫れ移動乾燥室に用ゆるも決して溫度激變の憂あることなし苟も乾燥場は收繭後の短期間、僅かに之れが機關の作用をなすのみなれば此僅少時日に於て可成大多數の繭を乾燥するは最も須要の事に屬す而してピアン、ジー、チユビニー諸氏の乾燥法は數多の蒸箱を少許の距離を隔てゝ下方より上方に配列し以て順次、溫氣を繞廻せしむるの裝置にして則ち其溫氣は最初先づ過度の熱氣を受くるも傷害を感せざる過半乾燥に趨きし所の下方の繭に觸れ漸次上方の新鮮なる繭に普及するの方法にして頗る周到の意匠なりと謂ふべし爾來此の壓縮空氣に因る乾燥場に就ては猶ほ精密の研究を重ね充分の改良を加へ實際の成蹟良好なりしを以て遂に一千八百九十九年に至り三十六ヶ所の蠶業場に於ては是れを設置し且日々各々二千五百乃至三千キログラームの繭を產出する三十ヶ所の蠶業場も亦來收繭期には必ず此の乾燥場を新設せんとするの計畫あり

溫氣は間斷なく流通更換し且其分配を均一にするが故に蠶蛹の燥殺には毫も遺憾あることなし

最近數年間に於ける實驗に徵するに新法に依り設立せる乾燥場は舊法に比して繭の貯藏費に至大の節約を加ふるのみならず蠶業家にして當時の相場にて販賣することを欲せざるときは之れを貯藏して時期の至るを待つも毫も化蛾等の患なきことを認めたり

空氣の溫度を攝氏九十度乃至百度の上に昇騰せしむることなく乾燥の時間をも亦適度の制限に據るあらば擂きに述べたる如く繰絲に於ける收量甚だ多額なるの好結果を得るを疑はず且實際數多の事實に見るも人工乾燥は繭に徵を生ずるの患なく繭躰摩擦の害を防ぎ又た一般の殺蛹に於けるが於き蒸氣の作用を直接に受くることなきが故に優良の絹絲を得ることも亦難からず故に最初蒸溜水の溫度百分の二十若は二十五を減少するも乾燥の方法其の宜しきを得るあらば蒸殺を完からしむること今茲に贅言を要せざるべし

直接に蒸氣の作用を受くるなく空氣の迅速なる流通によりて急燥なる繭は普通の方法を以て殺蛹し自然の溫氣にて乾燥せる繭に比し其絲質の優良にして絲量の富饒なるは各地の產繭に就き從來研究せし數回の比較試驗に徵して之れを知るを得べし

一千八百九十九年の收獲に係る支那掛合種の產繭三種に就き其繰絲上の平均量を實驗せしに壓縮空氣に因り一時に殺蛹乾燥せる繭は其量百分の九、四四〇にして直接の蒸氣作用により殺蛹し徐々乾燥したる繭量は百分の九、二六一に過ぎず則ち新法と舊法とは全量の上に於て平均絲量百分の〇、一七九の差あり要するに乾燥繭百キログラームに對し絹絲半キログラーム以上の差ある割合なり

殺蛹に蟻酸アルデヒートを使用することはブランク氏及博士クロジヤー、ド、パダー氏の研究に係る一法なるも其結果や蒸溜水に於てセリシーヌを溶解することなく製絲法の上に非常の害を及ぼすのみに止まり毫も之れが可否を論ずるの價値なきを以て更に讀者に對し之れを紹介するを勞めざるべし又近來繭の殺蛹と乾燥との間に幾干の時日を存するの方法を試驗せしものあり理論上より見るときは甚だ適切なるが如しと雖も實際に於ける作業の困難なるは博士レヴラー氏の實驗により既に自から證明せられたるを

以て今又茲に之れを叙述するの要なきを信ず

カリシモー、クロッチ、ドクリストフチソー三技師が産業上比較研究の名義に因て爲したる乾燥法は技師ブランシヨード、ド、ローザーヌ氏の計畫に係るものに比せば更に適理の方法なりと雖も絲層と温氣とを全然相離隔するの嫌なきこと能はず故を以て繭の乾燥を速かならしめんと欲するときは蛹躰に包含する水分發散の爲めには火力の發射を盛にして延板の熱度を充分に昇騰せしめざるべからず此方法は壓縮空氣交換に基く前述の乾燥法に比し之れに要する設備費の如きも亦甚だ大なるにより産業上の利益より云ふときは甚其効あらざるが如し

●風穴調査

蠶業家の經濟として横に膨脹せしむること、即ち年一回の大養蠶をなすの不得策にして縱に膨脹せしむること、即ち年數回の小養蠶(住家、人手、所持の桑園に相應する)をなすの有利なることは、既に識者の是認する所なり、而して夏秋の候養蠶をなすに就き、必要條件は健全なる蠶種を求むるにあり、夏秋蠶種を製造するの法種々ありと雖も、多くは風穴の力を借らざるべからず、此に於て乎茲に風穴の調査を記載し、當業者の參考に資せんとす、風穴の所持者及び管理者諸君は左の例により通報あらんことを希望す、

一位置、二經歷、三管理者或は所持者の姓名(會社組織なれば會社名)、四貯藏し得べき蠶種枚數、五風穴内貯藏期中の温濕度、六蠶種貯藏料、

一、信州別所の風穴

一位置　は長野縣小縣郡上田町を距る凡そ三里程別所村字氷澤にあり、西北に面したる山腹に位し北に向て構造せしものなりとす、此に至るには信越鐵道にて上田驛に下車すれば、是より腕車あり、又馬車の滊車發着時間を目的とし往來するありて頗る便利なり

二經歷　此氷澤は盛夏の候に至るまで、地中石片の間に凍氷の殘留するを以て、明治五年村内の有志者始めて蠶種貯藏の目的を以て風穴を築造し、貯藏を試みたるに好成蹟を得たるを以て、爾來改良を加へ今日に繼續し來りたるものなり、又一は明治廿八年同村蠶種製造家の計畫にて專ら秋蠶原種の貯藏及び究理用に充つる目的にて構造せしものなり但し普通蠶種貯藏にも適す、

三管理者　同村倉澤運平

四貯藏し得べき蠶種枚數　前二個の風穴に毎年貯藏する蠶種の類別は、掛合蠶種、夏秋蠶取黒種(即穴蠶)、春蠶種(但晩春蠶の目的)、秋蠶元種等にして、其數四千枚に達す、

五風穴内貯藏期中の温濕度

四月中平均 温度	四月中平均 濕度	五月中平均 温度	五月中平均 濕度	六月中平均 温度	六月中平均 濕度	七月中平均 温度	七月中平均 濕度
三二	七〇	三四	七四	三八	七八	四〇	八〇

六蠶種貯藏

蠶種枚數	貯藏料	以上一枚を增す毎に
一より五まで	拾貳錢	貳錢
一〇	貳拾貳錢	壹錢六厘
二〇	三拾八錢	壹錢四厘
一〇〇	壹圓五拾錢	壹錢

右の外入穴出穴手數料は一回金二十錢なりとす

●伊國蠶業雜誌主筆測量學士マリニー氏我國に寄贈せる蠶繭標本

伊太利蠶業雜誌長測量學士カブリーレー、アレサンドロ、マリニー氏は十數年來蒐集し來れる蠶繭の標本七十五種並に其著述に係る書籍二十四部を農商務省に寄贈し來れりと云ふ右の標本繭は左の如く分類せり

(一)伊太利種或は輸入(伊太利にて飼育した純粹種並に雜種)

(二)伊太利にて飼育したる佛國種

(三)佛國にて飼育したる伊太利種

(四)伊太利にて飼育したる特別變種

右の内伊太利純粹種其多きを占め殊に此種に付ては毎年の收繭を對照したるものあり以て其飼育の進歩如何を一目瞭然たらしむるに便せり又外國種は主として支那の黄種及び白種(薄黄種をも包含す)或は日本の白種及び綠種にして此等外國種の飼育に就ては最初より其後數回の複製に於ても結果全く不良にして繭の形狀頗る不整到底鏡檢的並に生理的兩者の

方法に依りて選擇するの外なき狀況なるも年次進歩の蹟あるを呈せり

然して支那種は性質虛弱なるに依り風土に馴化すること頗る困難なるも日本種は之に反し原種より尙一層品質を佳良齊一にし收獲多量ならしめ得るの望あり

標本繭の全部を收獲期毎に之を拵刻せば伊太利の產繭は實に歐洲中品質最良にして產額最大なることを知了するに足るべし

標本中には蛹を除去したるあり或は殺蛹法を施して原形全部を存置せるもあり又白殭病に由りて硬化せられたる如き病理學的資料の若干もあり後者は以て蠶病の蠶兒に及ぼすの慘害幷に蠶絲の生產に及ぼすの影響を示さんが爲めなりとす

各標本は保存するに付ては大に注意を加へ殊に色相の汚損及びカッホムシの被害の如きを豫防することには頗る勉めたり

蠶兒飼育と氣象との關係は已に研究の步を進め然して地方の風土に適應すべき種類を撰擇するの必要に付ては頗る注意を深からしめたり

當國蠶種製造者は蠶業上の便利を期するの途として常に此等の研究に從事し居れり然して何れの蠶業國に於けるも桑樹の繁茂し得べき風土は蠶種製造上に最も肝要なるべきことは何人も知了する所なり

養蠶と氣象との關係に付ての研究は多年の實驗を要すべきことなるが。故に專門家及び普通養蠶家は常に宜しく之れが研究を怠るべからざるなり

方今伊太利に於て雜種製造に供用する原種は主として支那より輸入せらる日本種は嘗て大に伊太利に賞用せられ現今尙其品質の佳良の點に付て頗る貴重せられ而して主もに伊太利國內の一部特に氣候稍寒冷の地方に需用せらる

右に就きマリニー氏送付の書類飜譯の勞を採られたる野村農事試驗場技手より吉池農商務技手に送くられたる私信は參考の資となるもの尠からざるを以て此に附記せり

拜啓右寄贈者アレサンドロなる者は本邦人には除り知る者無之候得共同氏は白殭蠶の自化する前に赤紫色に變ずることに就て古くより研究せし人にて、(尤も同氏は其發見者にあらざるも) 之れを細

茵の作用に歸したり其研究は同氏の寄贈書目の冒頭に見ゆるミクルコッカス、プロチヲサスの手引草に有之候右研究は未だ本邦人の注意せざる所に有之候故小生は旣に右書類を伊國書舖より購求致し此れに由て研究致し候處同氏の述ぶる細菌は存在致し候併し或る點に於ては伊國ロンバルヂー大學理文科紀要に於てトレブサン氏と申す者に同氏は駁擊されしも全躰より論ずれば上出來の論文に御座候扨て昨年の發見に係る浮塵子の赤死病菌も亦右の細菌と同一物なることを此頃に至りて證明する樣に相成申候兎に角アレサンドロ氏の研究論文は小生に取りては一方ならざる好材料と相成申候此の如き學者が本邦に向て其論文を寄贈するに至りしは實に至幸なることにして吾人は各國の學者が續々本邦に向て寄贈せらるゝに至ることを望むものなり

(以下畧す)

因に曰ふ該蠶繭標本は農商務省標本陳列館に陳列せられ公衆の參觀を許さるゝ筈なりと云ふ

◉統計 (Statistique) (Statistics)

●三十四年十二月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表(大日本外國貿易月表に據る)

種目	三十四年十二月 數量	三十四年十二月 價額	三十三年同上 數量	三十三年同上 價額	三十四年一月以降累計 數量	三十四年一月以降累計 價額	三十三年同上 數量	三十三年同上 價額
輸出 生糸	九、五〇八、〇〇〇斤	八、〇〇四、六七九・七五圓	六、三〇〇、〇〇〇斤	六、六六二、三六・六〇圓	八、六七〇、〇〇〇斤	七、三二、九二・〇〇圓	四、六七〇、〇〇〇斤	四、六七〇、六七・六〇圓
輸出 撚糸	三、三〇〇、〇〇〇斤	一、八八、四〇〇・七五圓	一、四〇〇、〇〇〇斤	一、四六六、三八・〇〇圓	一、四六六、三八・〇〇圓	一、四〇〇、〇〇〇斤	八、六七〇、〇〇〇斤	八、六七〇、〇〇〇斤
輸出 絹	四〇〇、〇〇〇斤	六七、六七・七五圓	四〇〇、〇〇〇斤	六七、六七・七五圓	四〇〇、〇〇〇斤	六七、六七・七五圓	四〇〇、〇〇〇斤	六七、六七・七五圓
輸出 羽二重	一、〇〇〇・〇〇斤	一、〇〇〇・〇〇圓	一、〇〇〇・〇〇斤	一、〇〇〇・〇〇圓	一、〇〇〇・〇〇斤	一、〇〇〇・〇〇圓	一、〇〇〇・〇〇斤	一、〇〇〇・〇〇圓
輸出 甲斐絹	一、四〇〇・〇〇斤	一、四〇〇・〇〇圓	一、〇〇〇・〇〇斤	一、〇〇〇・〇〇圓	一、四〇〇・〇〇斤	一、四〇〇・〇〇圓	一、〇〇〇・〇〇斤	一、〇〇〇・〇〇圓

	品目								
輸出	他の諸絹布	一、九五六	一〇、六七五・九五	五、一三三	二一、九一五・七八	四五、八六〇	三八〇、六〇五・五六	三一、二四六	二六二、六九五・五一
輸出	絹製手巾	六六五、七三六 打	二六、三八一・五二	九九、三二一 打	二三五、七四四・六六	一、二三七、九八〇	三、九五一、一九一・五六	一、一三五、六八六	四、五二八、五八三・七八
輸出	剪絨組布	—	八、七四八・〇一	—	三、四〇八・七四	—	九九、五三一・〇六	—	六一、四四七・二〇
輸出	他の諸絹製品	—	一〇、三三八・六七	—	三六、七八一・〇七	—	一三五、一七七・六四	—	五二八、四四三・四四
輸出	計	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
輸入	繭	四一、八八六 斤	四四、一八六・九五	三六、三〇八 斤	三一、九八七・三四	四四一、五五七 斤	三四二、五九二・七三	五九八、九九六 斤	六六八、六二一・五〇
輸入	生絲	一、三五三	一、二二六・〇〇	—	—	九三二	四、九四七・七六	五五、九六六	二五、八〇〇・一八
輸入	柞蠶絲	三〇、四四三	六二、一三五・〇五	一九、一九八	四〇、四三七・一五	三三五、〇一八	四五五、一八四・四八	一五五、八六六	四五一、三五九・〇二
輸入	絹織絲	—	—	—	—	[illegible]	一、四九二・八〇	[illegible]	九七、一四七・八八
輸入	縮緬	三四六 方碼	五七、三六八・八八	三四四 方碼	四四七・四四	五二四 方碼	二、六二五・二三	五五、五九〇 方碼	五、七六五・二三
輸入	絹紬	一三、五二四	三五、六六五・六八	六七、一四四	一五、三〇〇・九二	一、九〇九	一三五、五三五・二〇	四、四二一	一三四、一六三・一一
輸入	繻子	二、〇二一	一四、四九七・六四	六、五八〇	一〇、七三七・六七	四一八、八七四	八四、三九〇・九四	四六七、六九〇	九八、五三〇・三三
輸入	絹綿繻子	五、五七八	五五、六六〇・四六	一、九九四	二、七三八・三七	四九、三五三	七六、四五七・七四	五九、七一二	一一三、九四五・一八
輸入	絹天鵞絨	二七、六六七	三八、四五四・九五	一五、一二八	三一、一六九・二〇	七五、五八一	三七九、四〇三・三八	一〇八、〇四五	九八〇、九三四・五三
輸入	他の諸絹布	四、九五六	四、〇八〇・四四	三、一七六	一〇、〇三六・五五	二八三、三三三	九三、一八〇・九〇	七〇二、五二三	九四、八六四・二三
輸入	其他諸絹製品	—	一二五・六六	—	六九・六九	一三三、五九七	二、五五・五六	一〇一、九八二	一、八八七・二〇
輸入	計	—	一三六、九三六・一〇	—	一三六、六八〇・三六	—	一、四七二、〇四五・八二	—	二、五三六、七四六・三五

（參照）自三十四年一月至十二月輸出入品價額連月比較表

月次	輸出	輸入	合計	輸出ニ比シ輸入ハ増	輸出ニ比シ輸入ハ減
一月	一六、二七五、五五一・四二	一八、三七九、五三九・二四	三四、六五三、〇九〇・六六	二、一〇四、九七七・八二	—
二月	一七、七五九、八五三・八八	二二、一六五、六七四・四〇	三九、九二五、五二七・二八	四、四〇五、八二〇・五二	—
三月	一九、八五三、九五八・四五	二五、三三三、三六九・五〇	四五、一八七、三二七・九五	五、四七九、四一〇・九六	—
四月	一九、八二三、三七四・一二	二三、七七三、七七七・一一	四二、五九七、一五一・二三	三、九五〇、四〇三・〇一	—
五月	二三、七九六、〇七七・七二	二一、四四三、七〇〇・八四	四四、二四〇、七八四・五六	—	一、三五二、三七〇・八八
六月	一八、八三五、三三一・二七	二一、五一四、〇六二・六三	四〇、三四九、三八三・八二	二、六七八、八四〇・四一	—
七月	一七、四六六、四五二・八六	二三、九五三、七四九・八五	[illegible]	六、四八七、二九七・九九	—
八月	二三、八〇四、一九四・五五	二七、四四五、四九三・一三	五一、二四九、六八七・六八	四、六三九、二九八・三七	—
九月	二一、六六四、三八六・三六	二四、〇四一、二三八・九九	四五、六八五、六二五・三五	二、三七六、八五二・六三	—
十月	二五、二六七、八七二・五五	一九、四四二、二二四・四七	四四、七一〇、〇八六・〇〇	—	八、七三五、六五七・〇六
十一月	二五、〇八五、九一六・二六	一七、四六七、二六五・四一	四二、五五三、一八一・六七	—	七、六二八、三四〇・八六
十二月	二四、八四〇、七六〇・七五	一六、八六八、三四八・九〇	四一、七〇九、一〇九・六五	—	七、九七二、三六三・八六
通計	二五二、三四九、五四五・一〇	二五五、八一六、六四四・七〇	五〇八、一六六、一八七・八〇	三、四六七、一〇一・六〇	—

（備考）一昨三十二年十二月中は輸出二千百三十七万八千七百八十四圓六十二錢輸入二千〇三十四万〇七百四十三圓五十九錢にして輸出超過百三万八千〇四十一圓三錢なり

●問　答　(Questions et réponses)　(Question Box)

●桑苗仕立法に就き質問

秋田縣仙北郡長野村
大日本蠶絲會員　秋山泰藏

桑樹籠伏法及び其桑苗の用途御教示を請ふ

大日本蠶絲會
技藝委員　田島棟平

桑の籠伏せ苗を作るには根刈桑より出たる新梢を七八月頃地平線下一二寸の處に横臥せしめ尖の方四五寸を殘し土を覆ひ置き翌春二三月即ち發芽以前に此れを掘り出だして先きに土中に埋めありし部分の枝梢を二尺内外に截斷し而して別に畦を作りて距離三四寸に並列し淺く土を覆ひ置くときは秋末迄には長き新梢數條を生ずべし之れを一條毎に切り放ちて苗木となす

用途は他の方法によりて作りたる桑苗に異ならず但し根の生し方佳ならざるものは代出し苗と爲すをよしとす

●桑葉害蟲の件に就き質問

香川縣大川郡五所山村
大日本蠶絲會員　岡田美代治

每年五月中旬頃より桑園に害蟲發生して桑葉の裏面に附着し其葉を卷く一種の葉捲蟲あり蟲形靑くして翼なき浮塵子に似て綿絲の如き四筋の尾あり其長さ凡そ一寸許なり是を葉裏に附着すること霜の如く風

吹けば散亂し桑園一面に及ぼすものなり然れども大雨の時と流水にて洗ふ時とは悉く除去し得るなり此葉裏を蠶に食せしめて害あるや否や且つ之れが驅除法を問ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木　忠次郎

質問の害蟲は葉捲蟲に非ず所謂クワヅラミ又クワノワタムシと云へる蟲なり此蟲躰より排出する白粉絲の附着せる桑葉を蠶兒に給與し有害なるや無害なるや未だ實驗したることなきも無害なりとは云ひ難かるべし

驅除法　此害蟲は成蟲幼蟲共に能く跳行するの特性あり依て平鉢若くはブリキ製の金盥の類に少く水を灌き入れ其上に石油を少く浮せ置き害蟲の附着せる桑葉の下に横へ置き靜に被害葉を振り動かせば右石油の上に落ち斃るゝものなり又掬蟲網の類を被害葉の下に横へ害蟲を之に振り落し集めて之を撲殺するも宜し

●桑葉價格の件に就き質問

奈良縣宇智郡牧野村　大日本蠶絲會員　森　本　二　郎

春蠶五齡期の桑葉(新梢共に)一貫匁の價格を金拾錢とし五月一日早桑多胡六葉發芽(全園平均)すると假令すれば爾後十五間日に摘採する正葉一貫匁に對する毎日の桑葉價格何程なるや御敎示を請ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　土　屋　泰

桑葉の收量は氣候の如何に依りて大差あるものなり殊に一二齡中に在りては掃立前後に於ける氣溫の高低及び乾濕に依りて收穫に五割内外の增減を來すことあり故に價格は其年の收量に依りて定むるを至當すれども今二三年間の收穫を平均して精算すれば左の如し

一段歩の收穫

壹合	三九、〇五六	貳合	九七、六五五
三合	一二九、〇九六	四合	一六八、五一四
五合	二四八、五九八		

右の收量は芽摘にして各齡に於て一段歩宛摘採するものとして精算したるものなるが故に掃立以後毎日幾何宛の增量なるやは明ならずと雖も前表に據り五齡期一貫匁を拾錢とせば一段歩に付ては廿四圓八拾五錢餘なり故に各齡の收桑量を以て右の金額を除して得たるものは其齡中に於ける平均一貫匁の價格なり今一二齡中に於ける價格を示せば左の如し

壹合中一貫匁に付　六拾三錢六厘
貳合中同上　貳拾五錢四厘

但し發芽後毎日に於ける十五日間の桑葉價格は不明なり

●蠶の各眠前に於ける狀態と給桑の件に就き質問

群馬縣碓氷郡松井田町　大日本蠶絲會員　田　島　周　太　郎

蠶の各眠前に當り給桑するを俗に四回のセメ桑と云ふ而して此セメ桑にて蠶は六七分通り眠るを例とす然れば斯の如き場合に際し始め壹回のセメ桑より四回目のセメ桑に至るまで即ち壹回毎に蠶躰の容躰は如何なる現象を呈するを極度として給桑なさば宜しきや御高敎を仰ぐ

答　大日本蠶絲會技藝委員　町　田　菊　次　郎

質問の責桑の意義たる少しく空漠に失するの嫌ありて答辯に苦む殊に責桑の給與方法は飼育の流義によりて一概に論斷することを得ざるものあり今我社の飼育法に據り蠶躰と給桑の關係を述ぶべし。

責桑第一回は蠶の躰色青色を充たしたる時に於て始め食桑の稍や盡んとする時第二回を給し茲に於て蠶躰幾分か青色褪めて白色を帶ぶるに至る第三回に至りて躰色全く酷白となり稀に稍や透明せんとするものあるを見るべし此とき蠶兒は百頭に對し十五或は二十頭位就眠するを適度とす但し給桑通常より多量となし又其時間も普通三時間毎に給與せしものなれば二時間半位に與ふるを宜とす

●蠶兒の動靜に就き質問

群馬縣北甘樂郡富岡町　大日本蠶絲會員　伊　勢　多　藏

蠶兒が蠶箔の周圍に這ひ出づるは如何なる原因なるや明細に御敎示を請ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　吉　池　慶　正

蠶兒の蠶箔の周圍に這ひ出づるは二箇の場合あるが如し其一は蠶兒が蠁蛆の害に罹り或は其他の關係にて疾病を釀したる際に(神經に異狀を來し)苦悶の餘蠶箔の緣に出づるものと其二は獨り蠶のみならず成繭科昆蟲の特性として五齡(昆蟲の種類により必ず五齡を經過するものとは云ひがたし)に達し盛に食餌を取り充分躰軀の發達をなし蛹即ち第二期時代を安全に經過せんが爲め整伏用の繭巣を營むなり

此繭を營むに當り昆蟲の種類によりて或は葉裏に或は枝頭に或は土際に或は樹幹に各其場所を求むるものとす野蠶柞蠶類は多く葉裏に營繭するが如し蠶兒の周圍に這ひ出づるは全く營繭に適當なる場所を搜索するなるべし故に蠶座中に簇を拵へ營繭に便を與ふれば決して這ひ出づるとなし尤も疾病にあら寸老熟にあらずして這ひ出づるとありそは給桑の不足なる時に於て之れを覺むる爲めと又就眠に際し高燥なる位置を覓むる爲めとに於て之れをなすなり或は又蠶兒の種類によりても是れあるを見る即ち野蠶の掛合か或は野蠶に近きものは常に周圍に徜徊すること甚し是れ野蠶時代の性行脱却せざるによるなるべし

◉病蠶排泄物の件

三重縣北牟婁郡三野瀬村　大日本蠶絲會員　川口豐三郎

病蠶の排泄物を桑園の肥料となせば病毒傳染の患ひあるとは理論上當然のことなれども實地此の害に侵さるゝものなりや若し過て病蠶の排泄物を施肥したるときは其消毒法は如何にせば可なるや又何ヶ年位病毒の生存するものなりや

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　廣瀨次郎

病毒の土中にありて繁殖力を保存する時日の長短には枝頭に或は土際に或は樹幹に各其場所を求むるものとす野蠶柞蠶類は多く葉裏に營繭するが如し蠶兒の周圍に這ひ出づるは全く營繭に適當なる場所を搜索するなるべし故に蠶座中に簇を拵へ營繭に便を與ふれば決して這ひ出づるとなし尤も疾病にあら寸老熟にあらずして這ひ出づるとありそは給桑の不足なる時に於て之れを覺むる爲めと又就眠に際し高燥なる位置を覓むる爲めとに於て之れをなすなり或は又蠶兒の種類によりても是れあるを見る即ち野蠶の掛合か或は野蠶に近きものは常に周圍に徜徊すること甚し是れ野蠶時代の性行脱却せざるによるなるべし

◉蠶室蠶具消毒に就き質問

新潟縣北蒲原郡乙村　大日本蠶絲會員　井上才藏

(一)蠶室蠶具の消毒に供する器具は數種にして是非の判別に苦む普通の家屋及び器具を消毒するに何れが最も簡便にして奏功するや御垂示ありたし

(二)本會報廣告を見るに自働噴霧器も消毒に適するものゝ如し本器を使用するものとすれば五坪の蠶室百枚の蠶座を消毒するにフヲルムアルデヒート液如何程を要するや且つ其斤價格を問ふ

(三)自働噴霧器は甲種乙種あるが如し仕用上差異なきや否や

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　林羆作

(一)消毒器には種々ありと雖も蠶室を消毒するに簡便にして且つ奏効確實なるものはムラトリ式自働噴霧器なり然れども蠶具中網及び莚の類は別に蒸汽消毒を行ふを要す蒸汽消毒は適當なる裝置により沸騰點に達せる流走蒸汽にて三十分間以上蒸すにあり

(二)自働噴霧器を用ひて蠶室を消毒するにはフヲルマリン液を三十四五倍の清水を以て稀釋せるものを四壁、天井及び床等に撒布するなり尤も蠶室には蠶架を作り其他の小器具類も入れ置き共に之れを消毒すべし但し莚及び網は別に消毒するを要す而して蠶室消毒には右の液一升を室の平面積凡そ六百平方尺に撒布する割合なり

現今フヲルマリン一封度の代價は六拾五錢位よりなれども セーリン會社製のものは壹圓内外にして尤も精良なるが如し

(三)自働噴霧器の甲種乙種は實用上には別に差異あるを見ず

◉絲況 (Marché des Soies) (Row Silk Market)

横濱市場

横濱市場は穏波洋々の間に舊年を送くり、瑞氣靄靄の裡に新年を迎へたり、此市場の元旦は、敢て活躍激奔の態なしと雖も、歩武正整世界に於ける蠶絲の大市場たるに耻ざるの姿なり、而して其初商内をなせし數は實に一千七百餘個にして、之れを去年の一千餘個に比すれば七百個の增額なりとす、價格も亦器械に於て貳拾圓折返に於て五拾圓、座繰に於て百二拾五圓の高調を現したり、

今一月中に於ける大勢を畧記すれば、上旬に於ては

太絲の需要多く、從て賣了高も多かりしが、中旬に至りては新規の注文逆せざるより、賣買額は少しく前に相讓りしも、氣勢は依然として存續せり、下旬に至りては細絲太絲共に注文來り價格も漸次昇進せり、然して客年よりの持越荷數は一萬九千百七十五個半にして、入荷は八千三百五十五個半、之れを合算すれば二萬七千五百三十一個となる、此内賣了せるもの一萬四千九百三十二個、地方に積戻せるもの一千六百三十三個半にして、之れを合計すれば一萬六千五百五十五個半となる、故に其翌月に繰越せるものは僅に一萬〇九百六十五個半に過ぎざるなり、翻て客年本月に於ける狀況如何を探尋すれば、入荷七千四百二十三個半、積戻二百七十個半、賣了一萬〇〇三個半にして、入荷に於て九百三十二個、積戻に於て一千三百六十三個、賣了に於て四千九百二十八個半を增せり、又其價格は本年の高價武州埼玉製絲會社の獅子印(太)にして一千〇二拾圓、低價は岩代協立三人娘折返七百六拾五圓なり、客年の高價は伯州倉光製絲九百二拾圓、低價は上州新居座絲七百二拾圓なれば高價に於て本年は一百圓低價に於て五拾五圓貴き割合なり、此の如く客年來生絲貿易の好況を示せる所以のものは、屢々報道せしが如く全く米國絹業協會の盛行と其機業の發達とに外ならず、最近米國絹業協會の報告に據れば、一昨年に於ける輸入生絲は八百十七萬九千封なるに、昨年は一千一百八十七萬三千封にして、實に二百六十九萬四千封の增額を來せりと云ふ、而して此輸入せる生絲産地中歐洲及び支那生絲は、僅に一二割の增額を告げたるに過ぎざるも、本邦生絲は殆んど倍額を示せり、斯の如く本邦生絲の輸入多かりし所以のものは、唯單に價格の比較的低廉なるに歸せずんばあらず、價格の低廉是れ實に貿易上に於ける金城鐵壁なれば、生絲貿易に關係あるもの永く肝膽に縷刻して忘るべからざるなり、吾人は近時生絲の價格昂騰せしものあるを觀て、寧ろ之れを慶せずして敢て當業者の反省を希ふものなり

今左に本月中に於ける生絲集散表を揭げ參考となさん

明治三十五年自一月至同三十一日生絲集散種別表

種別	持越	入荷	賣了	積戻	繰越
器械	一二、九〇二	五、六二二	一一、九三三	一、六二二	四、九六九半
座繰	三、六七三	一、〇六九半	二、〇三九	一二	二、六九一半
折返	二、三一八	一、六五八	九六〇	—	三、〇一六
絲	二八二半	六	—	—	二八八半
計	一九、一七五半	八、三五五半	一四、九三二	一、六三三半	一〇、九六五半

備考

一、表中單位個は九貫匁を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の持越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものを賣了せしに依る

四、繰越以外に商談中のものありと知るべし

五、賣了中米國に輸出せるものは四千百三俵にして歐洲に輸出せるものは一千俵なりとす

但し一俵は十六貫なりと知るべし

尙左に生絲集散日別表を示すべし

○は器械絲　×は座繰絲
□は器械太絲　＋は折返絲

明治三十五年自一月至同三十一日生絲集散日別表

	入荷	手合	取引濟	引戻	輸出	地積戻	名	製産社	細太	高價	低價
一日	一三	一、七二九俵	一三	一俵	三六俵	一俵					
二日	六七七半	二七七	—	—	—	—	—	—			
三日	—	—	—	—	—	—	—	—			
四日	二二六半	一八	三三	毛	—	公	伊勢岩代	川尻同二製	絲	○×	八〇七〇
五日	—	—	—	—	—	—					
六日	四四七半	一八五半	一三一	—	—	—	甲斐三河	草郷廣桑社	社	□△	九〇七〇

座繰賣行尤も多く舒況を示せり

休　休

當月日弗々取入れあり相場は舊冬と變りなく手堅く保合の姿なり

日曜日

太筋物の新注進したるにや一兩節に大手合出來品に由り幾分か上進せり

日						
七日	三六二	一、一三六半	五九〇	一九	一五〇	一七
八日	三三六	一、〇九七半	八一九	一〇	—	—
九日	二四九	一、二六六半	一、一六二半	七一	—	六八
十日	二九六	七〇三	七三七	五六	—	三八
十一日	(一五)	八九五	七三二半	一〇六	三六九	三六
十二日	—	—	—	—	—	—
十三日	九六半	一、四九三半	五六六半	一六一	—	一〇三
十四日	三二九	五二五	九二〇	一三三	一、五七二	一〇七
十五日	三七八	四二一半	二、一四七半	一五五	—	一〇
十六日	三〇二半	二八〇半	四〇〇	二八	—	九六
十七日	二二二	一七一	五八九	七四	—	一九一半
十八日	五七四	三〇三	四六二	一七三	—	一七〇
十九日	—	—	—	—	—	—
廿日	一三三	四七六	三六七	一〇四半	—	二七
廿一日	三七九	二四〇	四九二	三六九	五八〇	—
廿二日	二一六半	八七八	四〇六半	一三五	—	一七六
廿三日	一三三	一、〇〇一半	一六六	—	—	六四
廿四日	一六六	四六四	一九二半	五五	一、一九七	—
廿五日	四〇七	一、一八五	一二八	六五	—	一二八
廿六日	—	—	—	—	—	—

信濃　上野　羽後　岩代　羽前　岩代　伯耆　岩代　武藏　岩代
笹田館　甘樂社銀字　角館　共同　羽二人　協立　來子　櫻馬　塙玉製絲　協立三人
┴×□+□+□□□÷
九五〇　八七〇　九二〇　八三〇　九九〇　七六五　九八〇　八八〇　一、〇三〇　七六〇

羽前　信濃　因幡　岩代　伊豫　岩代　伊勢　陸前　信濃　岩代　信濃　武藏
兩羽製絲　美笠製組　由谷製絲　共同製馬　飯尾二人絲　協立製頬　丹羽製絲　旭館銀　扶桑館　共同二人頬　笹田館　改伸社赤百合
□+□÷□□□+□×
一、〇〇五　八七五　九九五　八〇五　九一五　八一〇　一、〇〇〇　八八〇　九五五　八二〇　九七〇　八〇〇

信濃　常陸　石見　駿河　上野　相摸　越後　岩代　近江　越後　山城　上總
五洲館　金水社　石陽社　鷹岡二社　甘樂社赤等　漸進字　長岡社絲　共同一馬絲　木下製絲　魚沼頬印　小西製絲　横芝製銀
□○□C××□+□□○○
九七〇　八九〇　九四〇　八六〇　九四〇　八二〇　九五〇　八六〇　九六七半　八七五　九三五　八七五

引續き買氣ありしか氣配は依然保合の姿なり

多少新注進したる向もありて前日に比し五圓高のものあり相場引締れり

續て商内出來し品により五圓高岸操一番十圓高全體何となく手堅し

引續小堅く商内を告けたるも其割合には買手なき姿なりし

信州一番物は一寸此處相手薄なりし相場變なし

日曜日

太筋及細筋とも引續き買入あり相場も何分か高直の成行なりし

本日は前日程の商内出來せさりしも，氣配變りなし

此處電信待の風情にて諸館とも氣乘なく薄手合なりし

前日同樣敢て變りなし

本日も染て商談なく頗と目星しき取組出來せさりし

氣配變りなく保合の姿にして休日明けの入電を待ち居れり

日曜日

弗々當用口へ買入れに止まり氣配は前日同樣なりし

前日同樣相場は變りなく沈着なる成行を呈せり

多少新規注文達したるや一寸手合出來し引續き弗々當用口へ取組あり品により高直あり

海外電信不通の爲め何んとなく靜かなり

甲九十番へ新規注文達せしと見へ相應に商內出來し相場變りなし

日曜日

日						
廿七日	三三八	九九八半	五三九	二二八	—	七八
廿八日	三〇五	二〇一	六七六	一一九	七四六	三〇
廿九日	四八九	三五四	九六八	九八	一九三	一九八
卅日	—	—	—	—	—	—
卅一日	七九	一、四五九	一、四五九	一五六	四八四	一九三
合計	八、三五五半	一八、九一六半	一四、九三二	二、三二九半	五、一七三	一、六六三半

但馬　相摸　伊豫　越後　信濃　岩代　羽前　越後
擴産社　漸進社　伊豫製絲　田代製絲　松葉軒　協立二人頬　渡部製絲　信陽社
□×□×□+　×○
九三五　八〇〇　九一五　八三〇　九六〇　八二〇　—　九〇〇　八四〇

細筋及太筋とも商内出來し相場手堅く維持し居れり

前日に比し甚だ落付方にて手合薄き成行なりし

補充口へ弗々商内出來せしまでなりし

大祭日

至て手堅く品に依り五圓高本日も可なり商談出來したりし

●紐育市場　（客年十二月廿八日報）

本年も今や兩三日餘を過ぎるに至りたるが本年の　生絲市場は前年度より繼續せし不況を以て開始され且本年一月一日に於ける在荷の總計も餘り形勢の面白からぬを證し世界に於ける生絲の　供給は饒多にして　買手なして容易に手を下さしむべき機會を與へざりし現に横濱に於てさへも殆んど　二萬俵の停滯在荷を見たれども生絲の消費は依然盛固に保たれたり

歐洲に於ては各機屋とも注文を抱き居り　當國も漸次同樣の有樣なりしが　機業者は生絲の買入謹愼の態度を採りしを以て最初三ヶ月間は相場も底意脆弱にて聊か豫期に反せし感を與へたり　爾後市場は漸く復活し來り　相場も上進し新絲の開かるゝ前日は相場も平準點以上に達し前途益々上走るべく見へたり　而して年末に至る迄も形勢は常に活動しつゝ終らんとするが前途に向ては毫も市場に　何等の障碍を與ふべき徵候を見出し難きものゝ如くにて健康なる市場は　昨今の歩みを以て　進むならんと思はいたり

米國絹業協會の報告する所によれば　昨年中同國に於て歐亞各國より輸入せる絹絲　絹布類を前三箇年に對照すれば左の如くなりと云ふ

	一八九八年	一八九九年	一九〇〇年	一九〇一年
生絲俵數	七七、五五五	七六、四四四	六四、七七九	八二、〇〇〇
同目方（封度）	八、三五〇、一〇四	一一、一六六、三四七	八、一七九、三三一	一一、八七三、六一五
同價格（弗）	三七、六五六、九八五	四三、五九九、六〇四	三六、六二八、〇三三	三九、五九七、四三三
撚絲目方（封度）	八〇、八四三	二、〇七九、四五九	二、一〇〇、二四六	一、八四二、五七九
同價格（弗）	八八七、二九五	二、七四五、七一九	三、四四五、六三三	二、八七七、二七一
絹布目方（封度）	一、六八四、一九八	一、八二二、四〇八	一、四五八、三二八	一、二三六、一一三
同價格（弗）	五八六、六八八	七〇二、〇八〇	六四九、一〇四	六二六、〇四〇

（表中價格は輸入の送狀による）

更に千九百二年の生絲輸入額國別表を前年と對照せしものは左の如し

	千九百年自一月至十二月 封度	弗	千九百一年自一月至十二月 封度	弗
歐洲	三、四四四、二〇〇	一一、一四三、八〇五	三、六八〇、七四〇	一〇、一六六、五八四
歐洲經由亞細亞絲	三〇七、一〇四	九〇七、七七七	一六八、八〇四	五八八、〇〇七
日本	四、三三九、八六一	一四、四〇〇、一〇八	六、五五〇、一三三	二二、四九六、八六五
廣東	八〇六、八八一	三、七九三、八八八	六六六、六四四	一、七四〇、六九六
上海	一、八五四、三九一	六、三三一、五一五	一、九五一、九九五	六、二五八、二二〇
合計	八、一七九、三三一	三六、六二八、〇三三	一一、八七三、六一五	三九、五九七、四三三

（表中千九百一年桑港着の分は十二月二十日以後假定の計算なり）

此表に就て見る時は米國に於ける昨年中の生絲輸入

額は前年に比して凡五割を加増し其内日本絲のみにて四割二三分を占むるものと言ふ可し又特に注意す可きは絹布の輸入額にして生絲に於ては斯くの如き巨額の増加を示せるにも拘はらず絹布は前二箇年に比し却て減少せるを見る可し畢竟米大陸に於ける機業の間斷なき進歩を表白せるものと見て可ならん斯かる大陸に於て需要の増進極まりなき絹織物の原料なる生絲の供給地何れに在りやと問はゞ前表の示すが如く日本の如き小陸の産物より生ずるものなり將來果して如何なる成行を呈す可きか

●里昂生絲市場（十二月廿八日報）

本年も最早年末に際したれば無論格別の取引も出來ざず亦其餘塩のあるべき筈なければ今週の不振は左迄怪しむに足らず尤買實は皆無なりしと云へども相場の氣配は敢て崩からざるなり本月の取引振な見るに思惑買の注文多數にして眞の消費者の取入は僅少なりし斯は思惑者の誘に需要者は引入られずして市場の成行な窺ひて更らに乘氣とならざりしが故なり但右の投機連の買入ありしゆへに市に彷徨し居たりし投實特此期に乘じ片付き從て相場の稍平均したはる右の結果に外ならずして市場維持の爲に幸のことと云ふべし

元來本年七八及び九月の突即ち蠶收穫の終を告げたる頃は製絲家と云ひ生絲持主筋と云ひ本年の生絲商業な以て稍々活動すべき市況なる量し相場も時に依り上騰するならんと思惟し年の九月迄は强氣に搆へ居たりしが十月に入りては此强氣も漸く少々始め人氣も下た押しとなりたり而て十一月には賣人の失望其兆な現はし相場も是より次第に足豊崩れ始めたり

●美國市場（客年十二月十四日報）

近頃市況は　幾分引立ち摸樣にして上等物は買人の氣乘り立しき爲め相應に商ひの成立な見たるが相場も多少上調子にして中等物は依然何等變調な認めざるも　近來弗々買人あり要する に昨今の市況は稍々昇進したるものと云ふべしと之れ既報の如く過日　各地より參集して相場下落の驚防策な講じたる當用各當業者の勞効に待つ所ろ　蓋し鮮少ならざるべし　開く所ろに據れば前記當業者の集會に於て各手持筋は自ら讓歩して以て實出の方針に斷然進るべかりずとの　動議に賛成したる者百六十一人の多きに及べりと云へば　愈し當業者にして果して此れな確取して動かざるの決心あらば今後　再び相場の引崩るゝ樣のことなしなかるべし亞細亞絲は主に需要豊富なりさるも　上海に於ける爲替相場の多少引緩みたる爲め弗々商ひあり、　日本器械僅等亦た可なり好景氣な呈したり、　又た乾繭は其だ態況にして相場も多小上押し尚は前途頗る有望に見受けたり

●上海市場（一月五日報）

上海の生絲は清暦歳晩に接して價格は漸次上高の傾向な示し　二十日間程以前の相場に比すれば　取引直段は概して十五兩高となり即ち金鮫鱗は四百二十二兩半チョウ鮫鱗は　四百七兩半の手合出來し其他諸品とも頗る　手堅き氣配ながら中には歳晩の爲め金融の都合上賣急ぎ　なるものもあり　又新年に餘日なき爲め夫れ丈け　越年の準備に忙はしく漸次休業ななす向きもありて取引高は其割に多からずと云ふ

◉外報（Nouvelles étrangeres）（Foreign News）

●米國に於ける機業の今昔

シルク、ヨーナルに掲載する所によれば既往二十箇年間に於ける米國絹織業の進歩は實に驚くべきものにして今一千八百八十二年に至る著しく發達せしものを擧ぐれば左の如くなりとす

巾廣物の機臺數

	一八八二年		
機械機	五、五〇〇	一九〇一年	比較
手織機	三、一〇〇	四、五〇〇〇（増）	三九、五〇〇
合計	八、六〇〇	八〇〇（減）	二、三〇〇
		四五、八〇〇（増）	三七、二〇〇

リボンの機臺數

	一八八二年		
機械機	二、五〇〇	一九〇一年 七、〇〇〇（増）	比較 四、五〇〇

撚絲の錘數

	一八八二年	一九〇一年	比較
四五〇、〇〇〇	撚絲工場一分間内の錘の廻轉數	一、九〇〇、〇〇〇（増）	一、四五〇、〇〇〇
	一八八二年	一九〇一年	比較
三千乃至四千回	撚絲工場の數	一萬乃至一萬二千回（増）	七千乃至八千回
	一八八二年	一九〇一年	比較
三百九十五	絹物工場の數	九百	五百五

以上の如くにして尚ほ千八百八十二年には米國にて世界消費高の三割八歩に相當する絹織物を製造せしものが千九百一年には八割五分を製造する事となり特にリボンのみに就て言へば充分に九割に相當す可く又同國絹織物の製造額は二十箇年前には一箇年四千四百萬弗なりしものが其後價格の著しく下落せるにも拘はらず昨年は凡そ一億弗の多きに達し此外尚ほ二十箇年間に絹絲絹布類の輸入額な増加せし事十三割なりと云ふ

●歐米に於ける蠶絲取引所の現況（海外實業練習生長沼泰爾報告）

現今歐洲大陸に於ける重なる二三の絹物商工業地（佛國里昂、伊國未蘭、瑞國ヅュリック）に在りて蠶絲取引所の徴々たるは實に豫想外なり玆に其概況な叙述せんか

里昂に於ては一千八百八十年頃に一度蠶絲取引所な組織し之な試みたれども其當時一人として所内に立入るものなく里昂蠶絲取引所なるものは有名無實の間に終り遂に成立せざりし其後今日に至るまで里昂に於ては其必要な認めざる故か曾て再度の計畫な見ず

尙今日に於ても實業者間には里昂の如き蠶絲の消費地に於ては假に蠶絲取引所を組織し苟も定期取引を行ふものとせんか其相場の騰落は直に一般市場に波動を及ぼし少くとも幾多の人氣を攪亂し爲に重なる現品の取引にも多少の差障を與ふる場合あり之を要するに一般取引上より見る時には取引所に定期取引なるものは其利害相殺減して尙利ありと認むるを得ず又取引所に於て極短期の定期取引及び現品の取引を爲さしめ僅に供給需要の綜合機關とのみせんか全く其必要を見ずと說く者あり

瑞西國ヅユーリツク市に於て從來取引所の中に蠶絲をも加へ置き每週一回（每木曜日）取引を開き殆んど現品取引に限あれども是れ亦有名無實にして取引皆無の姿なるを以て重要視するに足らざるなり

美蘭市に於ては Syndicate の組織に就ては屢々議する所ありしが又去る十一月下旬同地實業者相會して市價救濟の策を講じ同時に取引所設置の利害も一問題となりしが近くは佛、瑞の先例あるを以て尙一層の研究を必要とし其可否を決するに至らざりしと

●伊太利製絲家の會合（據生絲日報）

伊太里蠶絲業者組合は同國目下の生絲商業の不景氣救治策即ち生絲の市價を維持せんとて其方法講究の爲に去る十一月廿八日を以て組合員即ち二百五十名の製絲家を美蘭に召集したり而して此會議には尙同國のピエモン、ヴエテシー、トラシタン、マルシユ、オシブリ及トスカーヌ等の各州にある製絲家百名程も加はりて救治策の評議に與りたり今當日會議の模樣を記すべし

會頭は先づ起て集會の製絲家に向ひ當日の議題たる生絲商業不振の救治策に就て會議を開き論議すべき乎を問ひたるに殆んど滿場一致を以て會議の進行を可決したり依て會頭は書記をして議案を朗讀せしめたり其提案は第一救治策即時實行第二は市場將來の救治策の二種とす

偖て第一號案に對しては贊成を表せる製絲家百六十一名ありたり而して救治策として今より一定の期間一切生絲を賣出さゞると而しては此期間は市場の相場にして組合調査委員會が定むる處の賣直に回復する迄賣止を爲すと等とす然るに賣却直段に制限を設け市場の相場にして其制限以下に落入り居る間は賣止を爲すべしとの提案を爲せし製絲家八名ありたり又一定の期日間製絲場を閉して製造を中止せんと提議を出せる當業者二名先物空賣を禁止せんとを要求せるもの三名ありたり其他繭及び生絲の相場を公平に査定する處の會所の設立を希望するもの十二名ありたり次に第二號議案市場將來の救治策に移れり此救治策に關しては繭の賣買習慣法に改良を加へ舊弊を去りて且亞細亞の蠶絲國に於る繭の產額連年增進爲すが故に我國（伊太利）從來の平均直段算定を自今廢止するこそ得策ならんと建議する製絲家十六名あり

生絲の定期取引所を設立して各製絲家をして今日の如く各自孤立隔離なして商賣を爲さんより該取引所を介して相互に自由に各自の意志を通して圓滑に生絲賣買を行はんしめんとを提議せる者二名あり尙最後の建議者一名は伊太利國の絹物機業を今より一層盛大になして國用に充分滿足を與へんとを提論せり

以上の議題は來集の各員中に盛なる論難抗辯等を生じたるが結局會員多數の贊成を以て迎へられたる建議は生絲の定期取引所の設立案之れなり然れ共來會者非常に多數なる此會の如き場所に於ては此等の問題を細密に調査講究せんと困難なるより會頭は來衆の請求に應じ調査委員七名より九名を撰定し此委員會をして今回の提案中其最も救治策として實際に近く行はるゝものを撰定せしむるとに一決して會議は閉局を告げたり

●伊太利に於ける蠶絲保護同盟會

伊太利に於ける製絲家は前頂に於ける集會の結果として愈客年十二月十三日伊太利蠶絲保護同盟會なるものを設立したり而して各會員は自己の產出せし生絲及び撚絲の割合に應じて資金を積み立て置き政府の公債證書を買入れ其所有者は各出資者に宛て置き若し絲價にして暴落することあらんか此積立金を以て生絲を買上げ以て價格を維持せしむる代りに謂なくして暴騰せる場合には同盟會に於て賣り出し以て絲價の平を準得るに努むるにありと云ふ同會の存續期限は成立の日より向五箇年にして一箇年の積立金は七十萬法（約貳拾八萬圓）の豫算にして創立總會の日までに申込みたるものは二十萬法に達せりと今其規約を擧ぐれば左の如し

第一條　蠶絲工業者間に於て今回一のアソシアーション即ち同盟組合會を組織し之を伊太利蠶絲工業保護同盟會と稱す

第二條　本會の本部事務所を未蘭市に設立し尙臨時必要の場合には支部若干を全國內蠶絲地樞要の各所に設置することあるべし

第三條　本會の目的は市場に暴落若くは暴騰の傾向現はるゝに際しては其都度生絲を買收若くは賣却し若くは其他臨機適當の方法を以て生絲商業界の間に介立して相場の整理者として運動すべきものとす

第四條　蠶絲者にして五ヶ年間各自製造の蠶絲高に應じ生絲は一キロに付十サンチーム（凡四錢）撚絲は一キロに付五サンチーム（凡貳錢）の割合を以て本會へ寄附するものは本會に加入し本會の會員たるの資格を有す蠶絲結束裝飾業者及び本會の主意を贊成する自由寄附者に對しては其寄附金額を低減す而して其低減額は理事會頭に於て審査の上之を定むべし

第五條　本會に於て充分に贊成員を得たるときは本會の發起者は一般會員を召集して會議を開始し而て本會に於る專任理事會頭の撰擧を得ふべし專任理事會の會頭は本會に關する規約を制定し以て本會を設立すべし

第六條　本會の專任理事任命の撰擧に就ては各會員は發言權一票を有し尙一ヶ年五百リール（略々佛貨一法なり）以上を本會に寄附する

會員は其五百リール每に發言權一票を所有するものとす

第七條　本會營業の統制は之を十二名の專任理事委員會に委任す專任理事は每年其全員の三分の一を改選すべし理事年限の期滿ちて退きたるときは退會後兩三年を經過するにあらざれば之を再選することを得ず專任理事會には產絲地方の會員中より其若干名を撰任し參加し以て其州を代表せしむべし

第八條　專任理事會は每年互撰を以て其會の會頭及び副會頭各々一名を撰擧任定すべし

專任理事會會頭は投票の可否數正半の場合には最後採決の權を有するものとす

第九條　專任理事會は本會の營業事務を可成簡便に且經濟的に制定し討論、議決事務擔任等に關する內規を設け以て理事會に於て議決する處の營業方針を臨速に斷行と得らゝ樣務むべし

第十條　專任理事會は本會の統制及び營業方針に關しては之が專斷出來るの權を有するものとす且秘密投票法に依りて全會員の意見を詢問する權をも有す但し投票の結果は之を一般會員に明示するとな得す

第十一條　本會の會員たる各蠶絲業者より本會に到し寄附する所の醵金は專任理事會委員會が執行する營業資金即ち營業上に於て來る處の不時の損失、本會の經費及び本會營業に投ずる資金に對する利子給附等の支出に必要なる資金に對する保證準備金として備へ置くものとす

第十二條　每年決算の結果より生ずる處の本會の純益金より本會の經費及び一般會員に投入する醵金に對する利益等を控除し其殘額の一部は之を別途積立若くは各員の掲込むべき次年度の醵金に當て他の一部は一般會員に寄て其醵金額に應じて配當すべし

第十三條　本會に加入する處の蠶絲業者は本會に加入せざる同業者に比し各自の製造に係はる生絲の賣先の撰擇を取捨することを得但し本會に於て該生絲賣却の損失ありたるときは其不足を補爲に豫納保證金を納付せしめ若し又賣却上利益ありたるときは本會は其賣上金額に應じ利益を荷主に配當す尙專任理事會は本會員一般に對し生絲を擔保として前貸を爲し若くは其他金融信用貸等の便法を設くべし

第十四條　專任理事會の會頭は生絲買入の執行權を其理事會員に委任するとな得ず但し理事會に於て決行する處の生絲賣買の營業方針に關しては會頭は其專委員と共に常に精意を以て監督すべし

第十五條　專任理事會は本會一般の會員の退會は各自出金の寄附金額の增減等を整理一次年度に關する入會規約等を制定すべし

●紐育の競馬と絹物の流行

例年紐育マヂソンスクエール公園に於て競馬の催あり て此日には同市の上流社會の貴婦人は云ふに及ばず近郷近在より今日を晴れと着飾りて來集する男女の觀覽人群衆し頗る賑はしきものなるが紐育の絹物商より機屋に至る迄此競馬に於て其流行如何を探知推測するを常とす而して過般の競馬祭に於て見たる處にては今年も不相變米國上流社會の婦人には絹布の愛せられて弘く使用さるゝ有樣にして同市の新聞等は此景況を目擊して一齊に絹織物の爲に祝し合ひしとぞ

紐育にして斯の如く絹物の婦人社會に用ひらるゝ上は歐洲市場も其好景氣の餘惠を蒙り里昂其他の絹布も賣行よろしかるべしと悅び居る機屋もありと云ふ

●雜報 (Nouvelles diverses) (General News)

●蠶絲調査會に關する建議案

蠶絲調査會設置の必要は多年蠶業界に於て唱導せられたる處なるが今回衆議院に降旗元太郎、鳩坂行三外一名より提出せられたるが直に速決する所となりたりと云ふ今左に建議案を紹介すべし

我邦最大要物產にして之れが消長直に國家の經濟に至大の關係を及ぼすや明なり然るに幾近斯業逐漸衰著しく發達するが如し蠶も熟々其貿易の狀況を觀察し來れば概ねるに只之れ數の增加にして業の發達あらず蠶産益々多きを加へて識者愈々憂歎に流れ製絲益々產額を增して愈々粗惡の聲高し之れ實に斯業の不利のみならず實に國家の大憂なり而して宇內蠶絲を產するの國不尠殊に伊佛は品質の精良を以て清に產額の多數を以て彼我輸贏を決せんとす豈勞製に付し去るの秋ならんや政府は速に調査會を設立し政に之を經營上より調査考究して以て斯業の一大方針を確立し整密な始末根本除き本業をして泰山の安きに置き草然として他を浸駕するの策を樹てるべからず實に之れ目下急中の急務り故に十三四議會に於ては兩院共に大多數を以て建議せり之れ衆覺國家の定論にして國業者秩序の問題に屬し學天に靈覺を望む感あり仍て玆に本案を建議す

●屑物の徵菌に就て

横濱に輸出し來る屑物が近來兎角徵菌所謂一種の斑點を生じ商館が是等改良法を注意する由は兼て記するる處ありたるが右は從來信州地方產出のものに多かりしかど近年に至りて各地のものに波及せしは斯業貿易の爲め大に憂ふべきの事なり右は乾燥十分なりし品に多くして乾燥不十分の者に其弊少きが如し故に屑物を輸送するに先ち何等かの豫防劑を施すにあらざれば此の害は除き難かるべし製絲の爲めには乾燥を十分ならしめざるべからざるに屑物の爲め乾燥を不十分ならしむるは到底出來難き事なれば豫防法は屑物となりたる上にあらざれば爲し能はざるべし是等の品も出廻り當時は更に何等の異狀なきも少しく貯藏し置くに於ては發生するものなれば今日の儘となし置かば屑物貿易の減退を來すべしと云ふ

●富山縣の稚蠶飼育場設置補助規定

地方廳に於て稚蠶共同飼育の奬勵を行ひたるは富山縣にして共同稚蠶に關する規定を設けたりしが其後幾多の年月經過と共に改正の必要を生じ稚蠶飼育場補助規定とし發布せり右は參考の資となるものあるを以て玆に掲載すべし

第一條　貳拾名以上共同して稚蠶飼育場を設置し縣稅の補助を受けんとする者は第一號樣式に依り每年二月十五日までに當廳へ出願許可を受くべし

第二條　前陳共同者は養蠶業者にして相當桑園、蠶室及蠶具を所有するか要す

第三條　共同者中一名の稚蠶飼育擔當者を撰定し共同者の蠶種貯藏

掃立より二眠起眞までの飼育をなし各自へ分配せしむべし

第四條　稚蠶飼育擔當者たらんとする者は左の各號中の一を備ふる者にあらざれば許可せず

但し該當者なき場合は其資格を有する教師を雇入れ擔當せしむることを得

一、農商務省所轄の蠶業試驗場及蠶業講習所卒業者

二、甲種農學校及甲種蠶業學校卒業生にして二ヶ年以上實地に養蠶を行ひたる者

三、斯業に熟練なる養蠶業者にして前項仝等以上の技倆を有すると認むる者

第五條　稚蠶飼育場は縣下養蠶主要地に拾五ヶ所以上を設置し補助金は飼育蠶種の多寡、共同者の數及成蹟により金四十圓以下を下附すべし

第六條　飼育蠶種は同一種類にして共同購入及共同貯藏をなしたる者に限る

第七條　稚蠶飼育場の擔當者不適當と認むるか又は飼育蠶種十五枚（蟻量六十目）以下なるときは許可せず

第八條　稚蠶飼育擔當者は共同者に蠶兒分配後之を巡視し飼育上の注意をなすべし

第九條　稚蠶飼育場に於て飼育したる稚蠶の成蹟は第二號樣式により其年七月三十一日までに當廳へ報告すべし

第十條　第五條の補助金は前條報告の後之を下附すべし

附則

第十一條　本規程第六條は本年度に限り之を適用せず

第十二條　縣稅の補助を受け養蠶傳習所設置の郡は稚蠶飼育場の補助を與へず

第十三條　本規程第一條の出願期日は本年に限り二月廿八日迄とす

●徵兵猶豫の蠶業學校

徵兵令第十三條に據り中學校程度同等以上と認定せられし蠶業學校は左の如くなりと云ふ

兵庫縣蠶業學校本科
小縣甲種蠶業學校本科
福島縣蠶業學校本科

●諏訪に於ける大製絲家の生產額

本邦に於ける製絲生產地方として有名なる信州諏訪の大製絲家が昨三十四年度に製出したる生糸數量は左の如しと云ふ

二、七〇〇〇圓	開明社	一、八一〇圓	龍上館
一、五〇〇〇	岡谷製絲	一、四五〇	三全
一、二〇〇〇	信英社	一、〇〇〇	白鶴社
一、〇〇〇〇	尾澤組	八〇〇	七曜星社
六〇〇	信光館	五七〇	進耳社
五〇〇	鷲上社	五五〇	東英社
四〇〇	諏訪勤業	三一〇	港生絲
二七〇	開清館	二五〇	富岡館
二五〇	矢島社	二〇〇	金山社
一三〇	丸永	二六〇	信厚館
一五〇	東洋館		

即ち百釜以上の製絲家のみを以てして無慮一萬六千個に達せり若し夫れ百釜以下の小製絲家を合算せば諏訪のみを以て優に二萬個以上を製出したるを知るに足るべきなり

●岩原謙三氏の米國經濟談片

三井物產會社紐育支店長として永く米國にありし岩原謙三氏は此程歸朝して米國に於ける經濟界の視察談を試めり其の內蠶絲業に關するものは當業者の參照に資するの價値ありと認むれば左に之れを紹介すべし

今年の景況は最早生絲も此の邊の九百三十圓位の所で餘り登らず其邊の相場で新絲時期に近づいて來るやうになれば今年は漸次製品の相場も引上げらるゝことを得て中々立派な成績を得らるゝことゝ考へらるゝ、詰り今日の相場で推して往けば新絲も安く生まれることであるし、さうして今年の春景氣と云ふものは現に宜いので年來不振であつたリボンは漸く回復の兆候を現はして既に其工場も盛にならんとしつゝあるから日本の優等製絲と云ふものは此方面に於て今後多くの需要を見るは信じられるのである米國目下の在荷如何と云ふことは我國の人々も或ひは十分分つて居らぬかも知れぬが、昨年の通り大輸出をされたがそれで機屋が消費したのでもない、又此多數の生絲と云ふものが單に機屋の手にも入つて居ないさりとて生絲商の見込で買込んだと云ふ譯でもない、畢竟するに相場の居所が大分安いと云ふためと一般に商賣の景氣が宜く特にリボンの回復が見へて來た所から詰り四月乃至五月先きの先約定を爲すものが多くなつた爲めに今迄往つた品は生絲商が自分の倉に預つて置いて漸次先約定をなした期限に之を機屋の方に渡して往くと云ふのである、其故生絲商の見込であれ丈の品を買込んだのではなく矢張機屋の先約定に出でた者と云はなければならぬ、今度位先賣の盛んなることは未だ見ない所である、そこで生絲に於ては御承知の如く米國は我國に取つて此上もない顧客で一々多少の變化はあるけれども常に其取引と云ふものが圓滿に運びつゝあると云つて宜いので近來米國で養蠶をやるものがあつて例へばカリホルニヤの南の方又はミッシーピーバーレン抔にては蠶を飼ふことを試みにやるものがあるが之は全く一個人が自分の慰みのためにやるので詰りはミリーで愉快を取るために少しづゝやると云ふ位のことである又州長抔かどんなものかと云ふので試作をやつて居ると云ふことであるが併し之が發達して我國の養蠶事業上影響を及ぼし我生絲貿易の上に大打擊を與へると云ふやうなことは決してなからうと思ふ、米國現時の狀勢にては巧妙なる手先の技術を要する養蠶製絲の仕事の如きは未だ急には行はれぬので粗雜なる一秒間に幾つ出來ると云ふやうな仕事で十分なる利益を擧げ得らるゝものが未だ澤山あるから是等の仕事がなくならなければ巧妙なる手工を要する仕事は發達しないのである、從つて生絲は近き未來は勿論遠き將來に於ても其販路を狹めると云ふことなく我輸出は年々歲々頗る多忙のことであると信ずる、唯亞米利加に於ける生絲の賣込方橫濱に於ける生絲の賣込方に付ては改良を要することが多

々あるので此事に關しては日々研究を爲しては居るが未だ之れと云つて立派な考案を立てる運びには至らぬのであるが併し幾らか年々鞏固なる仕事を爲し得らるゝやうになつて來ては居る今其一例を擧げて見ると從來亞米利加で生絲を賣るときは悉く六ヶ月拂の約束手形を以て取引したものであるが近來は之を現金でやるか或は一ヶ月乃至二ヶ月位の期日で必ず金を拂ふと云ふやうな風になつて來て六ヶ月も代金を拂はぬと云ふ客は漸次消滅するやうになりはせぬかと思はれるのである、蓋し生絲商が六ヶ月と云ふ期限で生絲を賣つた爲に其間に悶着苦情があつて結局利益を消滅させたと云ふ例がある其處で其等の煩勞損失に堪へられぬ結果、縱令客が減つても營業を可成堅固にしやうと云ふやうな方針を採ることになつて來た、さうなると金融上の都合から確實なる商賣が出來ると云ふことになつて堅固なる營業が容易に市場に於て行はれ昨年の如きは七千四百萬圓からの大なる商賣が出來たのであるが之が今後益々愉快に取引せらるゝやうになりはせぬかと思はれる生絲の前途に對しては素より色々研究を要すべきことがあるが兎に角大躰に於て最も多望なることは疑ひないから我當業者も益々積極的方針を以て進むことを望むのである

●宮崎縣に於ける蠶業

本縣の蠶業は由來秩序的に着々進歩發達の狀ありて毎歲飼育戶數並に成繭額各數百を以て增殖しつゝあり輓近生絲の聲價も亦漸次昂進せり本年の縣費補助を以て成立せし養蠶巡回敎師設置數は八十八ヶ所の多きに及べり養蠶後即ち本年七月縣農會の主催にて右敎師及び熟心蠶業家の講習會を二週間廳下に開會講師としては京都蠶業講習所技師石渡農學士を招請せり仝時に蠶業集談會並に繭品評會を開設して是れが改善を促せり又本年より實施の桑苗植付縣費補助は出願者豫算に倍蓰の趨勢を呈し供給目的の各郡農會の桑苗は不足を訴ふ縣費補助額は一反歩に苗六百本以內植付させ代金三圓宛の補助にて百五十町歩の植込豫算明年は之れが倍數三百町歩又養蠶巡回敎師設置は百箇所の豫定なりと云ふ斯くの如くにして本縣も果然十年計畫を遂行するの曉に達せば他日一大産額を呈するや疑なかるべし此間毎年各所に養蠶敎師を設置し農事講習所蠶業卒業生を出し又短期講習會を施設する等の事あるを以て前途嘱望の事柄尠からず（本會地方委員山本祐安氏報）

●人事彙報

▲外山龜太郎氏　本會評議員にして技藝委員なる外山龜太郎氏は今般農科大學助敎授に任じ高等官七等に叙し六級俸を下賜せらる然るに之れと同時に運羅國より蠶業の發達を圖らん爲め本邦に技師長招聘の議あり君其選に當り本月七日出發せられたり同國は氣候酷熱飲料水又不良にして溫帶に生活せしもの、健康に可ならざるを聞く自愛自重以て同國蠶業の振興を圖られんことを

▲關口八重吉氏　本會技藝委員にして東京高等工業學校助敎授なる關口八重吉氏は今回文部省より機械製作に關する事項研究の爲め英國米國に滿三箇年留學を命ぜられたり

▲村田榮文氏　本會員石川縣人村田榮文氏は同縣河北郡笠井蠶業講習所講師となり熱心に薦陶の任に膺りし趣を以て金圓に謝狀を添へ贈與せられしと云ふ

●特別廣告

●會員諸件

本年一月中本會に入會せられたるもの左の如し

○通常會員

東京　加藤　三五郎　同　愛知　白井　保之助
同　村上　森吉　同　武田　武平
都　福井　久之助　同　戶澤　勝太郎
同　松井　森太郎　同　小林　傳亮
同　朝倉　次郎　同　岐阜　藤原　逸衛
同　宮川　藤吉　同　長野　國江　清壽
同　上總　元藏　同　和形　金太郎
埼玉　金澤　福次郎　同　藤澤文左衛門
愛知　荒井　鉄次　同　大澤　伊太郎
同　內藤　米藏　同　平田　太六
同　小山　久五郎　同　宮城　宮東　勘十郎
同　白鳥忠左衛門　同　飯野　庄五郎
同　森　今朝次郎　同　星　了
同　小野寺清之進　同　和田　十衛
同　鈴木　實　同　熊谷　鐵太郎
同　佐竹　保藏　同　秋田　芽五郎
福島　板垣　要次郎　同　岡山　吉木
同　菊地助左衛門　同　相田　勝一
同　二瓶　兵太郎　同　河野　準九郎
同　齋藤　庄五郎　同　山口　彌藏
同　佐藤　國吉　同　西村　德
岩手　櫻井　萬次郎　同　廣島　文八
同　高橋伊勢次郎　同　山形　鎌上　俊治
同　熊本　伊藤　計　四十七名

右の內にて加藤氏は河野靜正氏の、金澤氏は小池安五郎氏の、荒井氏は神谷德五郎氏の、內藤氏及以下四氏は山脇又七氏の、藤原氏は小柳津準治郎氏の、藤澤氏は北信支會の、大澤、平田の二氏は信濃下伊那支會の、白鳥氏及以下四氏は曦部龍次氏の、板垣氏は宮原忠正氏の、菊地氏は橋井興五右衛門氏の、佐藤氏は八城宮七氏の、高橋氏は二宮鶴松氏の、鎌上氏は南波克治氏の、飯野氏は山川金三郎氏の、星、和田の二氏は山形支會の、吉木氏は島根支會の、田中氏は坪田勇吉氏の、河野氏は早川千助氏の、熊本氏は鳥取支會の、秋田、岡山、相田、河野、西村、廣島、文八、齋藤、佐藤、櫻井、高橋、熊谷、相田、西村、伊藤、山中、野村の十九氏は各自に申込まれたり

又同月中死亡せられしもの左の如し

○通常會員

山形　齋藤　要藏

大日本蠶絲會事務所及會堂建設要旨

本會は去る明治二十五年四月の創設に係り歳を閲すること茲に十年にして今や會員は無慮六千有餘名の多きに達し支會の設立を見ること既に十三箇所に及へり其發達の速なること蓋し此種の團体中未曾て此比を見ざる氣運なるべし而して本會が創設以來克く幾多の困難に耐へ抑〻亦有志諸君が熱心斯業の改進を企圖せられたるの結果には固より斯業に因るべしと雖も然れども之を本會が豫期せざりしの如く頗る所なり一本會は尚ほ遠く責に外ならず會運は斯の如くに發達し是れ本會が特に有志諸君に對して深く感謝の意を表する所なり一方今熟〻内外の形勢を察するに斯業界の前途は愈〻多事ならんとするの時運に向ひ從て本會の責務とす一此時に當り本會が克く斯業界の屬望を曠うせざらんことを期せんことには亦將に益〻多きを加へんとす然れども其設備なかるべからず之に應ずる設備なくんば本會の一時に完全ならんことを望むは容易現に事務所は固より之に應ずる設備なくんば本會の一時に完全ならんことを望むは容易現に事務所は僅に一小借家に過ぎず又從來大小の集會及會堂の擧ある毎に一時他の家屋を假用し爲に不便利を感ずるは夙に本會が諸君と共に深く遺憾とする所にして今更に之を喋々するを要せざる場一致を以て本會は事務所及會堂建築の議を去る三十二年六月十日の評議員會議に提出せしに滿場一致を以て本會固より其費を弊ずるの資あるを得ず由て左に建築費の概算を掲げ敢て諸君の贊助を仰ぐ希くは上來述べたる所の旨趣を洞察せられ以て其資を投ぜられんことを

明治三十五年二月

一建築費概算は左の如し
金五千圓　事務所及會堂二階建五十坪建築費
金壹千圓　品評會及大小集會に要する諸物品設備費

一建築設計は寄附金前項定額に滿つるを待て之に着手するものとす

一寄附金は金五拾錢以上たるべし

一寄附金は便宜の銀行爲替に取組ませるゝか又郵便爲替は神田淡路町郵便受取所拂渡しに振込まれ小爲替證書は證書の表面右の方に設けある欄内に大日本蠶絲會と記入して送らるべし

一寄附金は總て日本橋區萬町第百銀行に預託し嚴に之を保管す

一寄附金をなしたるものには謝狀若くは紀念章を贈與し且つ其金額及氏名を錄して永く本會に保存す

大日本蠶絲會

蠶病消毒用
オルマリン液

自動噴霧器

◎警告

近來粗製ニテ實用ニ耐ヘサル品又ハ代價ノミ安クシテ破損シ易キ品アル故御注意ノ上御購求アランコヲ希望ス幸ニ欺カル、コト勿レ

一自動噴霧器

和製　壹具　金九圓
舶來　壹具　金拾六圓

○小包料　一百里内……金貳拾四錢
一百里外……金四拾八錢

○本器ハ蠶室、蠶具ヲ消毒ナスルニ使用スルモノニシテ「ホルマリン」(蠶印)壹磅ヲ清水八升五合ニ溶解シ撒布スレバ上圖ノ如ク極メテ細霧トナリ噴出ス故ニ奏効顯著ニシテ使用方ハ至テ輕便且永久ノ使用ニ耐ユルハ本店製品特優ナリ(他製品ノ比ニ非ズ)

○本店ハ他ニ率先シ良工ニ命シ製作ニ益々改良ヲ加ヘ販賣シ既ニ公評アリ且販賣後ト雖モ萬一工合狂ヒタル品ヲ發賣仕候ハ無代價ニテ修繕ヲナス責任アル故ニ充分精巧ナル

東京市日本橋區本町三丁目十八番地
松本市左衛門
(電話本局七百五十二番)

調病消毒器械及藥品
醫療理化學器械
問屋
松本分店
(電話本局千五百二十番長距離加入)
(發信略號「マツブン」)

製造發賣元

蠶病消毒器械及藥品
醫療理化學器械
問屋
松本分店
(電話本局千五百二十番長距離加入)
(發信略號「マツブン」)

製造發賣元

◎急告◎

左記ノ器械藥品ハ蠶室、蠶具消毒用トシテ諸大家ハ證明セラレ全國ノ蠶業家諸氏ハ賞用セラレツヽアリ且既ニ世ノ公評アリ幸ニ他ノ製品ニ瞞着セラルヽ勿レ

田中式 簡便安全消毒燈

一田中式 簡便安全消毒燈	單立	壹具　金拾貳圓五拾錢
	三連立	壹具　金參拾貳圓
	五連立	壹具　金五拾參圓
一トリラー式消毒器		壹式　金百七拾圓

○本器ハ今回製造會社ト多數特約致候ニ付薄利ヲ以テ發賣仕候間各團躰ニ於テ續々御買上アランコヲ尤モ個數ニ限リアル故此際御申込アリタシ

一リングチル式消毒器		壹式　金六拾五圓
一蠶印ホルマリン（四十ブロセント含有）		壹磅　金八拾五錢

○本品ハ獨逸國製藥會社ト多數特約ノ結果非常ノ格安ニ發賣仕候

一メチールアルコール		壹磅　金四拾五錢

製造發賣元　東京市日本橋區本町三丁目十八番地　調痢丸本舖　各國藥種問屋　**松本市左衛門**（電話本局七百五十一番）

製造發賣元　東京市日本橋區本町三丁目十四番地　蠶病消毒器藥品　醫療理化學器械　問屋　**松本分店**（電話本局千五百二十番長距離加入）（發信略號「マツデン」）

●蠶病消毒用 諸器械藥品類 大販賣

（消毒器詳細圖は御申越次第贈呈す）

一トリラ氏消毒器	壹基	金百七拾圓
一リングチル消毒器	壹基	金六拾五圓
一田原氏消毒器	十二連立	金九拾五圓
一同	六連立	金七拾八圓
一同	單立	金貳拾參圓七拾五錢
一同改良無心消毒器		金貳拾四圓
一田中製簡便安全消毒燈	五連立	金五拾五圓
一同	三連立	金參拾貳圓
一同	單立	金拾貳圓五拾圓
一自働噴霧器	舶來銅製	金拾六圓
一同	最上和製銅	改正價金九圓
一同	同ニツケル製	金九圓五拾錢
一特許改良自働噴霧器	銅製	金四圓五拾錢
一特許改良自働噴霧器	上製	金五圓五拾錢
一メチールアルコール	一磅	金四拾五錢
一同	舶來一磅	金八拾五錢
一獨逸セーリング會社製元封フォルマリン原液	一磅	金壹圓五拾錢
一蠶病消毒薰烟暖爐	一個	金壹圓八拾錢

●注意　獨逸セーリング會社製原液ホルマリン此際多數御注文に限り特別大割引可仕候也

蠶病消毒は實に蠶業界刻下の急務にして學者之を唱へ養蠶家之を行ひて其効驗顯著なるを確め益々普及せんとするに至りしは斯藥の爲め廢賀に堪えざる所なり然るに此好期に乘じ無暗に利是れ貪らんとし少しく代價を低減して粗造の消毒器や噴霧器を製造し又稀薄なるホルマリン、メチールアルコールの如きを販賣するものあれども弊舍は是等無用の競爭を爲さず專ら器械及藥品の完全と精撰之れ勉め販賣致し候處に各地諸官廳農蠶學校及組合其他の農商務省蠶業講習所に於いて蠶病消毒講習會に於て御使用相成たる新式リングチル消毒器及セーリング消毒器を始め其他各種多數御買上げの榮を蒙り弊舍の光榮之れに過ぎず候今後尚一層品質を精撰し大方各位の御愛顧に背かざる樣致し可申候間倍舊の御引立偏に奉希望候

●發賣　東京日本橋箔屋町十四　丸山舍　京都上京中立賣七本松東入　丸山舍支店　大坂西區本田二番町卅二地　丸山舍支店

御旅館　波多野

本館ハ市街ノ中央ニアリテ最モ便利ナリ
館主ハ蠶業家ニ知人多シ
精々丁寧ニ且ツ勉强可致候

京都市寺町通三條下ル
電話　壹千七百七十九番

一原種用蠶種　白玉　白姫　又昔　支那
一製絲用蠶種　餘杭種　夏蠶改良大草
實費販賣　白姫（他種ハ品切）

仕候間御照會被下度候也
後約外剰餘ノ分ハ際實費販賣可
申込クロス製
度候

茨城縣結城郡上山川村　櫻井養蠶場

純粹無垢　種禽種卵分讓

パフレグホン、アンダルシヤン、リーダン、ミノルカ、黑色バンボルク、銀色バンボルク、パフリモース、鴨アヒル、七面鳥、洋鶩エンデンギ

右の種禽は何れも純良無垢なる種鷄を撰定播殖し豊家副産を增進盛大ならしめんが爲め普く同好の士に分讓す詳細は返信郵券を副へ照會有之度候

千葉縣東葛飾郡田中村花野井
明治三十五年二月　藤井藤松

理學博士佐々木忠次郎君校閲
農學士廣瀨次郎君著述

實驗蠶體生理　五版

理學博士佐々木忠次郎君校閲
ドクトル市川延次郎君校閲　金成金產君著

實驗桑樹栽培改良法

農學士紫藤章君校閲　吉池慶正君著

蠶種檢査提要

高橋信貞君著述

製絲法

右御要望の向は代價及郵稅を添（御申込相成度候

正價金壹圓
郵稅金拾錢

大日本蠶絲會

丸山舍發賣書籍目錄

蠶業教科書

四錢精圖百餘入クロス製十五頁迄無延送

蠶體生理

價壹圓は前五錢送料十四錢

蠶病消毒法

第三版改訂增補
前同詳細付て本誌に廣告せり

京都蠶業講習所技師農學士石渡繁胤先生校閲
絲檢査所技手田榮太郎先生著述

詳細は前號廣告にあり三月十五日申込

俗語

農科大學東京蠶業講習所教授理學博士佐々木忠次郎先生著述
農家のみや講師農學士林鶴雄先生校閲

日本蠶病新論

（書籍之部）

品名	著者	賣價	郵稅
桑樹切枝立法	長坂又兵衛	八十錢	二錢
農學士	梅原寛	五十錢	二錢
蠶性論	石井新太郎	七十錢	二錢
蠶審査提要	吉池慶正	二十五錢	二錢
蠶兒檢査法	石渡繁胤	二十五錢	二錢
蠶蛾解剖法	佐野慶蔵	二十五錢	二錢
大日本蠶史	石渡繁胤	二圓五十錢	四錢
蠶事報告（一號）	農學士	七十錢	八錢
蠶業新報告（二號）	同	二十五錢	二錢
蠶業視察談	同	十五錢	二錢
蠶業演說集	同	十五錢	二錢
蠶場新年會	速水直人	十五錢	二錢
米穀製造法	今西直次郎	十五錢	二錢
製絲部報告	同	十五錢	二錢
製絲事情	同	十五錢	二錢
中外蠶業視察談	同	十五錢	二錢
蠶業獨習書	今西直次郎	十五錢	二錢
蠶種檢査法	同	十五錢	二錢
生糸檢査要覽	同	十五錢	二錢
桑樹害蟲驅除法	今西直次郎	十五錢	二錢
蠶豫防法	同	十五錢	二錢
大日本蠶絲業家人名錄	丸山舍	三十五錢	四錢

發賣所

東京市內
京橋區
丸山舍本店
東京日本橋區
丸山舍大坂支店
丸山舍京都支店
丸山舍東京出張所
丸山舍本店
丸山舍大坂支店

東京蠶業講習所御編纂

新刊 卅三年度 **蠶事報告** 第十七號 賣價八十錢 郵稅八錢

●目次●試驗之部●桑葉逃養○桑ノ葉質○桑葉摘採時刻○催青○卵殼硬軟○蠶種凍氷○蠶卵「フォルマリン」浸漬○蠶種人工越冬○春蠶種類○夏蠶種類○秋蠶種類○蠶ノ生命長短○乾濕○稚中飼育○上簇○蠶雌雄撰別○細菌撲防○軟化病消毒○蠶蛹ノ呼吸○繭ノ乾燥及貯藏○桑ノ害虫調査●傳習●蠶業ノ傳習○研究生ノ入退學及修業○本科二年傳習生養蠶成績○本科一年傳習生養蠶成績●記事●桑樹發芽及開葉○蠶種貯藏及催青○養蠶中ノ氣象○配付蠶種ノ成績

右例に依て發賣す蠶業界の好指針本書に優る者恐く他に非るべし

農商務省桑樹萎縮病調査所御編纂

新刊 **桑樹萎縮病** 調査報告 第五號 價壹圓八拾錢 郵稅拾貳錢

本文六百餘頁寫眞版石版貳拾餘枚入

多年の調査未だ其病原を知るに至らずと雖昨三十三年中に於ける諸學士の探究略々其源を明にせられ且本病と「エアナーム」との關係をも附説せられたる眞書なり

農商務省農務局御編纂

新刊 第二次 輸出重要品要覽内 **蠶絲** 全一冊

本文五百七拾頁余●價九拾錢郵稅拾貳錢

本書は蠶絲業界並に絹織物業に必要欠くべからざる參考書たること第一次刊行當時に徴し明かなり依て賛可を省く部數至つて少し至急御申込あらんことを

長沼辨次郎先生著

三版 原理應用 **栽桑新書** 賣價七拾五錢 郵稅八錢

桑樹栽培の書尠なからずと雖完全の著乏し本書は桑樹の生理、土壤、灌漑、排水、肥料、種類、蕃殖、養苗、整理、樹形仕立、耕耘、施肥、伐採、貯桑法等を詳說せる眞著なり

毛呂正容先生校訂●油井彌一郎先生著

實地活用 **夏秋蠶之燈** 定價五十五錢 郵稅四錢

夏蠶及秋蠶飼育の得利あるは蠶業者一般の既知する處なるも多くは其飼育術に拙劣為に失敗に終るもの多し本書は夏秋蠶飼育の本場と謂はるゝ信州の飼育秘術を纏述せるもの之に則とりなば恐く蠶の憂なし

農商務技師松永伍作先生著述

第六版 **蠶桑實驗說** 全一冊 賣價五拾錢 郵稅六錢

木長先生調査

最新刊 **清國蠶絲業**ニ關スル調査報告 定價三十錢 郵稅四錢

目次○緒言○氣候風土○桑園○蠶種○養蠶○蠶繭○繰絲製絲○再繰絲業○繭絲屑物○結論

本書は著者渡清以來四年間の實地調査なれは一讀支那蠶業界の情狀を了知せらるべきものにて吾國當業者の猛省を要すべき良著なり

池田幸之助先生講述

新刊 實地應用 **栽桑養蠶術** 賣價郵稅共卅二錢

信州接山蠶史戲著

新刊 蠶種家之警鐘 養蠶家之經標 **滑稽乘合滊車** 賣價郵稅共拾七錢

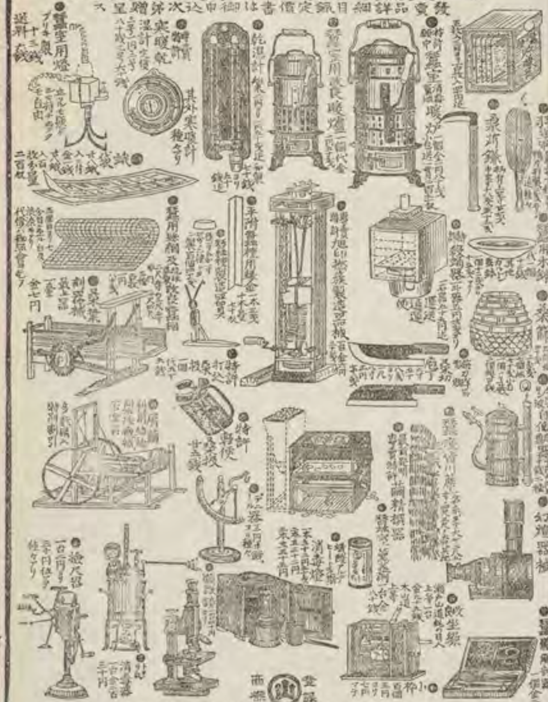
發兌書肆 東京市京橋區南傳馬町二丁目 **有隣堂**

注意 例年の通精確の寒暖計及乾濕計並各種の蠶網等大勉強發賣

詳細說明定價書は申込次第贈呈す

改良蠶具類一式製造發賣元

發賣品詳細目録定價書は御申込次第贈呈す



登録商標

蠶種桑苗蠶書蠶具問屋

丸山舍本店 ○ 丸山舍京都支店 ○ 丸山舍大阪支店

謹告 利世館營業案内

●肥料種苗農蠶器具ハ經濟ノ大源改良ハ刻下急務ナリ

改良農蠶器具肥料種苗類大販賣

蠶病消毒用
自働噴霧器

◎自働噴霧器 最上和製 金拾圓
◎獨セーリシグ合社製元封ブオルマリン原液 一磅 金一圓五十錢
◎全ノメルク合社製元封ホルマリン原液 一磅 金一圓四十錢
◎舶来フオルマリン液 内務省檢定濟 一磅 金一圓三十錢

右各品ハ目下必要完全ナル蠶病消毒用トシテ缺クベカラザルモノナリ此際至急御購入御使用ニ預リ度候
一府縣共同御購入等ハ多數御買上ヲ乞フ
注文ノ節ハ御照會次第下附可仕候
使用法其他ハ御照會次第御答可仕候

●撚糸製造器 六圓半
●特許殺蛹器 自五圓
●蠶蔟器械 至一圓半
●桑葉刻器 七二錢
●琉球草製蠶網 自
●桑切庖丁 各種
●桑刈鎌 各種
●蠶種保護器 五十錢
●蠶種鼠器 三圓半

●節煙安全消毒器 拾二圓半
●トリプ式消毒釜 二百冊圓
●蠶室用火鉢 五圓
●メチールアルコール 時價
●蠶種製造用線金 三
●全用原紙 四
●普通蠶種原紙 三百枚
●原種用蠶種紙 一十一
●顯微鏡 各種 一式 二百二圓

◎桑苗各種
早生赤木 ●新曲○島村○中生○中生九文字●普通十文字○魯桑○◎高助○高木○中村○(以下判讀困難)

◎消毒兼用 蕙煙器 暖爐

本器ハ春蠶ニ使用シテハ温度ノ調節自在ニシテ其他蠶ニ使用シテ炭量少シ之ニテ消毒トナリ薫煙セシムルニ空氣ノ交換ヲ適當ニシ室内ニ存セル病毒ハ勿論空氣ニ附着セル病毒ヲ殺滅シ蠶兒ヲシテ生全ナル保健ノ最良結果ヲ無病ニ保チ夏秋蠶ノ多量ニ收ムルヿ明ナリ改メテ學理家及實驗家諸君ノ大ニ唱揚シテ止マサル所ナリ

◎緊要書籍類
●日本蠶病消毒法 全 郵税共七十一錢
●養蠶實驗說 全 壹圓二十錢
●養蠶飼料書 全 貳拾九錢
●蠶種檢査提要 全 三十五錢
●桑樹害蟲病驅除豫防法 二十二錢
●蠶体解剖 全 壹圓二十九錢
●蠶体病理 全 三十九錢
●桑樹春切仕立法 全 八十六錢
●秋蠶ノ飼育法 全 拾錢

●蠶体解剖器各種 ●捻尺器操位衡一式

桑苗蠶種苗木農具蠶器肥料問屋
京都下京大宮三哲(鐵道)北入
諸官廳學校農業御用達
利世館 (電話番號セ)

利世館ハ確實ナル唯一ノ便利店

練木喜三君著
蠶教
正價五拾錢郵税六錢
本書御要望の諸君は代價及郵税を添へ御申込相成度候
大日本蠶絲會

新式高等美術的寫眞版
菅原道眞公御一代記
掛軸用
長一尺五寸巾一尺 豫約實費四拾錢郵送費二錢切手ニ割增

明治三十五年ハ公カ薨去ノ延喜三年ヲ距ル事一千年ニ相當スルヲ以テ公ノ御威德ヲ謹慕セシカ爲豫約法ニ依リ出版セントス有志諸君ハ三月末迄ニ御申込アランコトヲ御送金ノ順序御郵送可申候

菅公御一代記豫約申込所
東京市四谷區西信濃町十七番地
四谷圖書出版協會

蠶種貯藏委託ニ應ズ
風穴
宮城縣刈田郡小原村上戸澤
蠶種貯藏委託取扱所 古山龜吉

ツギキ桑苗特別割引販賣

早生市平	貳尺五寸以上壹千本ニ付	金八圓
中生九文龍	貳尺五寸以上壹千本ニ付	金八圓
中生魯桑	貳尺五寸以上壹千本ニ付	金八圓
中生金子	貳尺五寸以上壹千本ニ付	金七圓
晩生細江	貳尺五寸以上壹千本ニ付	金六圓卆錢
晩生十文字	貳尺五寸以上壹千本ニ付	金六圓

右之通リ販賣仕候間御注文所上候尚多數御購入之方ニハ精々割引仕ベク候

三河國幡豆郡西尾町十一番地
桑苗業 渡邊萬吉

春蠶種 八重姫。小石丸
販賣仕候御一報次第定價表呈
石川縣河北郡金津村
實力館

上毛の蠶種家
上毛蠶館
免疫性◎蠶種
千木良芳郎
群馬縣多野郡新町
又昔大小二種

フォルムァルデヒード液消毒用

堅牢保險 完全無欠自働噴霧器

正價 箱入一具 金九圓五十錢

小包料 百里外 五十六錢　百里內 二十八錢

本器ハ蠶病ヲ驅除スルニ有益唯一ノ利器タルコトハ今ヤ諸大家ノ實驗證明ニテ殊更喋々スルヲ要セサルナリ然ルニ近來世間ニ饒テ本器ヲ販賣スルモノヲ見ルニ以外ノ高價ナルモノ或ハ濫リニ價ヲ廉ナラシメ到底使用ニ堪ヘサル粗造品ヲ販賣スルノ弊アルヲ認ム實ニ是等ハ一時ノ奇利ヲ博セントスルモノニシテ大ニ斯道ノ爲メ遺憾トスル所ナリ茲ニ弊社ハ先般來本器ノ製作ニ付キ其要點ヲ專門大家ニ質シ刻苦研究ヲ極メタル結果在來品ニ異ナル堅牢保險完全無欠自動噴霧器ヲ製出スルニ至レリ他製品ニ比シ其卓越スル大要左ノ如シ乞フ御比較之上續々御注文アランコト

●本器ハ極メテ厚地金ヲ金屬搾出器械ヲ以テ製造セシ者ニシテ在來品ノ如ク薄弱ナル銅板金製品ノ比ニアラス

●本器ハ特ニ各接合部ヲ悉ク鋲止メ（カラクリ）製ニナラシメ有ルヲ以テ在來品ノ如ク薄弱ナル銅板金（ハンダ）附ケ製ノ比ニアラズ故ニ空氣壓力ニ依リ破裂スルノ恐レナシ

●本器ハ全部極メテ厚キ「ニツケルメツキ」ヲ施シアルヲ以テ一見高尚優美ノ器ナル而已ナラズ在來品ノ如ク腐蝕錆ヲ生ズル患ナシ

●本器製造ニ付テハ殊ニ責任ヲ帶御使用中萬一其製造方不完全ノ爲メ破損ヲ生ジタル場合ニハ何年後ト云ヘドモ無代ヲ以テ速ニ修理可仕候

●乙號自働噴霧器

壹具 金七圓五拾錢

右ハ從來世間ニ於テ販賣スル所ノ物ト同ジク銅ヲ以テ製造セシモノニシテ價ハ極メテ低廉ナルモ精巧完全ナル點ニ至リテハ世間高價品ノ遠ク及バザル處ナリ乞フ御比較ノ上御購求アランコトヲ

●「フォルムアルデヒード」原液時々相場ニ變動有之一定ノ價廣告仕兼候ニ付時々ノ大相場ニ基キ薄利ヲ以テ御注文ニ應シ可申候

東京市下谷區御徒町一丁目六十九番地

醫療器械製造所

合資會社 職工聯合進社

入會金半減廿五錢

（此廣告ヲ添付シタルモノニ限ル）

●講習期廿ケ月●見本料壹冊廿錢●毎月壹回廿一日發行 同菊版百二十頁以上●入會申込會費三ケ月分●

蠶業講義錄

三月廿一日第貳號發行

學科

●正科

蠶業汎論、桑樹栽培論、養蠶論、蠶體解剖論、蠶體生理論、蠶病理論、蠶病消毒論、製絲論、顯微鏡使用法、蠶業沿革史、蠶室、蠶具論、蠶種、繭、生絲審查論

●參考科

農用菌類學、蠶業應用動物學、氣象學、經濟學、土壤學、肥料學、農學大意、產業組合論

●附錄

蠶業ニ關スル諸大家ノ意見、實驗談、視察談、統計幷ニ入學試驗問題ト答案

講師（イロハ順）

職名	學位	氏名
蠶業講習所技師	農學士	石渡繁胤君
高等師範學校教授	農學士	針塚長太郎君
蠶業講習所技手	農學士	林驛作君
蠶業講習所技師	農學士	本多岩次郎君
農事試驗場技師	理學士 農學士	堀正太郎君
暹羅政府蠶業顧問	農學士	外山龜太郎君
中央氣象臺技師	理學士	和田雄治君
農商務技手		吉池慶正君
蠶業講習所技手		橫田長太郎君
生絲檢查所技手		高橋元助君
農商務技師	農學士	月田藤三郎君
蠶業講習所技師	農學士	辻暢太郎君
蠶業講習所技手		土屋[illegible]君
農事試驗場技手		中川久知君
農事試驗場技師	農學士	內山定一君
蠶業講習所技手		山木竹藏君
京都蠶業講習所長		松永伍作君
蠶業講習所技手		松尾重信君
農事試驗場技師	農學士	安藤廣太郎君
	法學士	木村林次郎君
蠶業講習所技師		芝山直清君

商議員（イロハ順）

饒進社長 浦部良太郎君

高山社長 町田菊次郎君

成進社長 下田伊左衛門君

●入會金五拾錢●會費 一ケ月金參拾錢（十ケ月前納貳圓八拾錢 廿ケ月前納五圓五拾錢）郵券代用一割增●

東京市本郷區駒込曙町十六番地

大日本蠶業講義會

新案噴霧器

安全堅牢

特別上製

壹個　定價金拾圓

圖解

A は圓筒の上部なる矮留液流出口の螺旋を改造せしものにして「a」に附着するものにして「イ」の内部に接除口の螺旋を新案せるものなり

B は「イ」の内部に附着するものにして「b」及び「ロ」の内部の鱗を自在に取り出

C は「イ」及び「ロ」の内部の鱗を自在に取り出

D は改造したる良品なる掃除口の大螺筒の「d」下部に附着する新案出せる掃除口の大螺旋にして「d」に附着するものなり

E はニッケル鍍金の螺旋を回轉するに用ゐるものなり

本器は弊店の新案にして成りて行ふを得且つ實なること既に定評あり一度御使用の後は他製品をして其噴出する細霧はそ

新案輕便付網消毒燈

本器は東京蠶業講習所の案出に則りて造作したる

至廣有効堅牢不變優美の改良網

用消毒

本器は和製にして安價なる

用法は簡易にして

消毒に替へて

使用すれば

爲めに

注意

一節に御用は可成早目に

御注文

可成早目に

御注文

之

製造合

合

製造間

トリラ氏消毒釜　壹個　金百六拾五圓
リンクル消毒釜　壹個　金百六拾五圓
セーリング消毒器　全　金壹圓五拾錢
フナルマリング會社元封　同普通　金壹圓
○メチール（木精）（船米和製）　金八拾五錢
○アルコール　金四拾五錢

箱付壹具　正價
（立運一）四金
（立運二）壹拾金
（立運五）三拾金

其他諸器械藥品蠶具等文に出でざるも御注文に應ず

製造發賣元　東京府下王子二丁目二十五番地

農商務省東京都各農學校並に諸官廳業講習所御用達

太治本紙

郎

（電話本局九百五十五番）（電信略號「カ」又「ミカ」）

○大日本蠶絲會報評語

大日本蠶絲會報第貳拾九號報に養蠶實用船來乾濕計を東京日本橋區木町三丁目拾參番地の「平屋支店」より發賣せり此乾濕計は硝子製丸形の寒暖計二個を板上に並べ懸けたるものにして其有る處にある寒暖計の下に磁器製の一小器即ち盛水用の器を置き上に蓋なりと其上に接ぎ上げたる板金器なり其上自在なりとの目度は對記とあるを以て學者に賣藥家に共に便なりと且つ此寒暖計の價は前に述ぶるが如く硝子の丸棒形なるを以て製絲家の繭絲湯の溫度をも計り得べく殺菌法を行ふに方に適するなり檢定し得るの便ありと發賣者は頗りに其効能を說けり因てこれが現品を一見せ！に度目も正しく其實の虛ならずとして實用に適するか認と掲載せられたり

養蠶實用船來乾濕計

壹具

金壹圓五拾錢
特別比較表付
金一圓八十錢
船來品にして價廉なり
湯暖計其他溫度計を代用す
度目の攝氏華氏對照なり
度目の精確なる他に比類なし
荷造は弊舗自辨なり

輕便完全實用的專門大家の實驗上公認する細霧は

弊舗今個發賣仕候船來乾濕計の義は世間の粗造品と異なり海外有名蠶絲會社製品中精確のもの相撰み其内より最も度目正確の分撰抜仕候義に有之候元來船來品は和製品と比較仕候へ共其品質なるは勿論に候へ共其實價格も廉價と存じ候何卒大方各位弊舗微意のある所を賞せられ幾々御使用の程偏に願上候也

尙有乾濕計の義は取外し自在に攝氏華氏兩目盛に付取外して湯暖計等を兼用候へば製絲釜の溫度計をも相勉め至極便利の品に有之候當今の內御試驗被下候上來則節に御使用相成候はゞ光分御効力も有之べくと愚考仕候

養蠶必要最高最低寒暖計

此器械は前夜の溫度幾何なりしやを指示するものにて之により蠶兒に適當の溫度を與へ健康を保護するに最も必要なるものなり何卒養蠶家には一器を備へて御試驗なを乞ふ

時計及裝飾品類
顯微鏡、雨眼鏡
養蠶用諸器械
醫療理化學器械

商會社玉屋商店支店

東京市日本橋區本町三丁目十一番地
（電話本局千七百九十四番）

◉會員諸君に望む

刻下蠶業界に於て爲すべきの事少なきにあらずと雖も、蠻蛆の撲滅より急且つ要なるはあらざるなり、實に蠻蛆は歳に月に蔓延して蠶兒を倒し、蠶繭を破り、蛹蛾を殺し、猛威當るべからず、本邦蠶業界に於ける一大害敵なりとす、而して之を驅除撲滅するに適切なる方策は如何、又其被害の程度或は八百萬圓と稱し、一千萬圓と稱するも、果して其幾何なるやは、未た明ならざる所なり、故に是等を調査講究するは急務中の急務に屬す、是れ實に會員諸君に報道の勞を煩はさんとする所以なり

一、蠻蛆の其地方に知られたる時代（例之は明治何年何村に蠻蛆なるものを認知したりと云ふが如し）

二、蠻蛆被害の實況程度（例之は被害幾郡或は幾村に亘り明治三十三年は四割、三十四年は三割の被害ありと云ふが如し）

三、蠻蛆驅除に關する縣令、諭達、諭告或は組合の規約、内規

四、蠻蛆驅除豫防を行ひたる結果の一般

五、蠻蛆驅除豫防試驗の成績

六、蠻蛆驅除豫防に對する意見考案

右の各項中一項にても可なるを以て通知せられんことを希望す、殊に一二項に於ては最も其切なるものあり、本會は會員諸君の報道と、從來關明せる學者の研究及ひ其沿革、講習所、學校等の試驗成蹟を披萃し、是に本會技藝委員の卓見を求め以て一冊となし、會員諸君に頒ち併せて蠶業界を警戒し、本會創立十週年の紀念となさんとす、若し夫れ是によりて蠻蛆に關する事實を社會に紹介し、蠶業界の一大害敵を撲滅するの方策を覓むるを得は、是れ獨り本會の力なるのみならず、實に會員諸君の賜なり

明治三十四年八月　大日本蠶絲會

Yokohama Hi-ito Gomei Kwaisha

(RAW SILK Co.)

Maison d'Exportations directes des Soies du Japon.

YOKOHAMA JANVIER 1902.
(JAPON.)

En vente au prix de 4 francs un volume.

LE COMPT RENDU IN-EXTENSO

DES

TRAVAUX DU CONGRES INTERNATIONAL

DE

1900

POUR L'UNIFICATION DU NUMÉROTAGE DES FILS SELON LE SYSTÈME MÉTRIQUE.

S'ADRESSER À

MR. PAUL FLEURY,

9, Rue d'Uzes à Paris ou lui envoyer un mandat poste de francs 4,50 pour recevoir le volume.

HARA YUSHUTSUTEN

MANUFACTURERS & EXPORTERS

OF

RAW SILK

AND

ALL KINDS OF SILK GOODS,

YOKOHAMA, JAPAN.

AVIS.

1°. Le bulletin de l'Association séricicole du Japon est l'organe des membres de cette societé qui compte actuellement plus de 6500 membres.

2°. Cette association a pour but de développer toutes les industries de la soie en publiant un rapport mensuel, dans lequel il sera mentionné tous les faits et études sur la soie émanant de savants et intéressés.

3°. Dans ce rapport sera inscrit dans une langue européenne le mouvement mensuel de la Condition des soies de Yokohama, lequel sera distribué aux intéressés étrangers.

4°. L'association recueillera et publiera les essais et études faits par les intéressés étrangers en matière des soies.

La Direction de l'Association Séricicole du Japon.

NOTICE.

1) The report of the sericultural Association of Japan are intended to serve the interest of the members of the assoication, whose number is over 6590.

2) This association has for its object the development of all silk industries by publishing a monthly report containing the facts and studies on silk by specialists and persons interested in silk.

3) In this report the monthly statement of the Yokohama Silk Conditioning House will be published in a European language for distribution among foreigners interested in silk.

4) The association will collect and publish articles and studies foreigners of topics concerning silk.

The Direction of the Sericultural Association of Japan.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTIES PAR JOURS.

DAILY TABLE OF MOVEMENT OF SILK,

Jours. Days.	Soie. Arrivée. Arrived.	Soie. Vendue. Sold.	Soie. Renvoyée. Sent back.	Soie. exportée. Exported.	Prix moyen. Filature. Hosoito. Extra. No. 1	Prix moyen. Filature. Futoito. Extra. No. 1	Standad Price. Zagure. Rereels. Extra. No. 1	Standad Price. Kakeda. Orikayeshi. Extra. No. 1	Maximun du prix. Highest prices. Noms des filateurs. Names of filaturs.	Prix. Prices.
	Piculs	Piculs	Piculs	Piculs	Yen Yen	Yen Yen	Yen Yen	Yen Ye		Yen
1				316						
2 3	381									
4 5	762	181	49		955 920	945 930	950 930	875 840	Kawashiriseishisha	890
6	267	85	2		955 920	945 930	950 930	875 840	Kusanagisha	920
7	204	219	10	15	955 930	945 930	950 930	875 840	Kubotakan	950
8	189	461			960 930	945 930	950 930	875 840	Tsunodateseishi	930
9	140	654	3		955 920	945 930	950 945	875 840	Riyouseishikwaisha	990
10	167	415	20		955 930	945 930	960 945	875 840	Yonagoseashizio	980
11 12	84	412	20	269	960 930	945 930	960 945	875 810	Saitamaseishikwaisha	1020
13	54	319	58		955 935	960 945	970 950	900 850	Riyouseishikwaisha	1005
14	129	518	60	1372	955 935	960 945	970 950	900 860	Yoshiyaseishizio	995
15	213	1208	7		960 935	960 945	970 950	900 860	Rioseishizio	995
16	170	225	54		955 935	960 945	970 950	900 860	Niwaseishizio	1000
17	119	331	108		955 035	960 945	970 950	900 860	Fusokan	955
18 19	323	260	96		960 935	960 945	970 950	900 860	Kubotakan	970
20	74	218	15		955 935	960 945	970 950	900 860	Goshukan	970.
21	213	277		580	955 935	960 945	970 950	900 860	Sekiyosha	940
22	122	229	43		960 935	960 945	970 950	900 860	Kanrasha	940
23	74	93	36		955 935	960 945	995 955	900 860	Nagaokaseishizio	930
24	105	108		1197	955 935	960 945	995 955	900 860	Kinoshitaseishizio	937½
25 26	229	72	66		960 935	960 945	995 955	900 860	Konishiseishizio	925
27	190	303	44		955 935	965 950	995 955	900 860	Kakusansha	945
28	172	380	11	746	955 935	965 950	995 955	900 860	Iyoseishikwaisha	975
29 30	275	545	111	193	960 935 960 940	965 950 960 950	995 955 995 955	900 860 905 870	Matsubakan	960
31	44	821	109	484	960 940	960 950	995 955	905 890	Watanabeseishizio	960
	4700	83990	919	5173						

1 *yen* vaut envion fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTIES EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Janvier 1902.)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(January 1902.)

		Report. Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Exported.	Renvoyé. Sent back.	A reporter. Brought forward.
Filature.	Filature.	7.257. Picul	3.162. Picul.	6.712. Picul.	Picul.	912. Picul.	3.261. Picul.
Zaguri.	Rereel.	2.066.	602.	1.147.		68.	1.319.
Kakeda.	Orikayeshi.	1.304.	933.	540.			1.405.
Autres.	Other.	159.	3.	—			183.
Total.		10.776.	4.770.	8.399.	5.173.	919.	6.168.
1901.		22.090.	4.175.	5.627.	5.050.	152.	20.875.

De mon côté je m'en occupe continuellement et je recueillis les différentes opinions sur ce sujet des principaux industriels et commerçants, même pendant mes voyages dans l'intérieur.

Voici quelques renseignements à signaler :

Pour la soie, quelques Chambres de commerce, quelques associations intéressées et toutes les maisons de commerce des soies étrangères résidant à Yokohama sont d'accord d'adopter le nouveau système ; les filateurs et les négociants japonais ne tarderont pas d'y faire adhésion.

Une chose qui me semble indispensable c'est l'acceptation de la part des négociants et fabricants américains de ce nouveau système, et que le gouvernement des Etats-Unis se fasse représenter à la conférence diplomatique internationale. D'après ce qu'on voit, il parait qu'en Amérique il n'y aura aucune difficulté sur ce rapport, car la soie essayée par le nouveau systéme y a été déjà introduite sans peine dans les affaires.

Quant à la schappe, le numérotage était généralement employé dans notre pays d'après le système français, mais il fut récemment converti en poids et mesures japonais. Il ne devrait cependant pas être difficile de suivre le nouveau système métrique.

La question très difficile est celle du numérotage du fil de coton. Ce produit de l'industrie est vraiment important et nous avons déjà commencé à en exporter des quantités assez considérables pour la Chine. Mais si l'Angleterre, qui en exporte le plus, ne se décide pas d'adopter le nouveau système, conjointement avec les autres pays, nos industriels seront probablement forcés d'attendre son adhésion.

Pour les fils de laine et de lin je n'ai encore que peu de renseignements.

Mon vœu est que tous les pays représentés au Congrès envoient bien vite leurs délégués à la Conférence diplomatique internationale et adhérent au nouveau système.

Marché des Soies

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Voici la situation de notre marché pendant le mois du Janvier 1902.

Par suite de la grande consommation de *fukoïto* (grèges $^{12}/_{14}$) pendant les dix premiers jours, la vente de cet article a été active. Pendant la dizaine suivante, cette tendance de la consommation a été soutenue ; mais la demande nouvelle n'a pas été nombreuse. Entré dans la dernière dizaine, la demande de *Hosoito* (grèges $^{9}/_{11}$) et de *fukoïto* a pris une nouvelle animation et a haussé graduellement les prix de ces produits La grège dont le prix est le plus élevé (*Yen* 1020 par 1 Picule) pendant la période de ce mois a été celle qui est fabriquée par *Saitamà Seishi Kwaisha* (Lion.)

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant la période du 1er à 31 Janvier 1902.

Raw Silk Market

MARKET OF YOKOHAMA.

The summary of the condition of the Raw Silk Market in January, 1902 :

In the first decade, the *Fukoito* (Raw silk $^{12}/_{14}$) was in great demand and consequently the large amount was exchanged. In the middle decade, the condition remained changeless and there were only some orders for new demand. In the last decade, both the *Hosoito* (Raw silk $^{9}/_{11}$) and the Fukoito found the great demand and the price gradually had become high. This month, the raw silk of Saitama *Seishi-kwai-sha* (Lion) was sold for the highest price (1020 *Yen* for 1 Picule) The following table points out the movement of Raw Silk in January (from 1st to 31th), 1902.

CONTENTS.

Opinions:

The relation between society and sericulture.....Nōgakuhakushi T. Sakō.
A secret art on sericulture.....T. Kimura.
The Prognostication of the condition in the sericulture in this year.....Y. Yoshiike.
The sericulture in the north-east provinces in Japan...Nōgakushi. I. Honda.
On the silk filature in China.....T. Yamamoto.
About the production of silkworm eggs.....Nōgakushi. K. Suda.
The question on the unification of numeration of thread in Japan at the present day.....N. Imanishi.
To the editor of the "Bulletin de l'Association Sericicole du Japon." .....F. Brinkley.

Miscellaneous:

The quick-drying of cocoon (Reports of the silk condition at milan).
The investigation of Fūketsu (Reserve room of silk worm-eggs) at Bessho in Shinano
Model of cocoon which was presented to our country by Mr. Marimi (Chief-editor of the magazine of tut silk industry in Italy).

Question-Box:

Method for nourishing the young sprouts of mulberry trees.
About the injurious insects on the leaves of mulberry.
The price of mulberry-leaves.
About the condition of the silkworms and giving the mulberry-leaves to the silkworms, before each of moults begins.
The moving and rest of silkworms.
The discharges of sick silkworm.
About disinfecting rooms and tools of sericulture.

Raw silk Market:

Markets or Yokohama, New York, Lyon, Milan, and Shanghai.

Foreign News:

The ancient and modern conditions on weaving industry in the United State of America.
State of the Raw Silk Bourses in Europe.
Assembly of Italian sericulturists.
Confederate Assembly for protecting the raw silk in Italy.
Prevalence of the horse-race, and the silk-goods in New York.

General News:

The Proposition concerning the Examination-Assembly of raw silk, &c.,

TO THE EDITOR OF THE "BULLETIN DE L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON."

Dear Sir:—

I wish to offer you my congratulations upon the re-arrangement and enlargement of the valuable magazine edited by you. Your foreign readers especially will be grateful for the change you have made in the place and distribution of the matter which appears in European Languages in your pages. Permit me to add my best wishes for the continued and increased success of a periodical which never fails to contain valuable information about the condition of an industry so vitally important to Japan as sericulture.

Yours truly

F. Brinkley.

Contributions. Opinions.

LA QUESTION DE L'UNIFICATION DU NUMÉROTAGE DES FILS AU JAPON DANS CE MOMENT.

PAR MR. N. IMANISHI, *Membre du Comité permanent du Congrès International de 1900.*

Aussitôt rentré au Japon, je présentai à notre Ministre de l'Agriculture et du Commerce un rapport sommaire au sujet de l'unification du numérotage des fils, dont le Congrès International, qui eut lieu les 3 et 4 Septembre 1900 au Palais du Congrès à Paris, s'est occupé. Ce rapport, ayant été, par ordre de Son Excellence le Ministre, distribué à toutes les Chambres de Commerce et à toutes les Associations intéressées du pays, se trouve encore à l'état d'étude.

大日本蠶絲會報第百十六號 (明治三十五年二月二十五日發行)

明治廿五年四月七日內務省許可

BULLETIN
DE
L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No. 116.

SOMMAIRE.

Contributions:

Relation entre la Sériciculture et la Société.....Nôgakuhakushi T. Sakô.

Point essentiel de la magnanerie.....T. Kimura.

Prévision sur l'industrie soyeuse de cette année.....K. Yoshiike.

La sériciculture au Nord-Est du Japon.....Nôgakushi T. Honda.

Les filatures en Chine.....T. Yamamoto.

De la production des graines de vers-à-soie.....Nôgakushi K. Suda.

La question de l'unification du numérotage des fils au Japon dans ce moment.....N. Imanishi, membre du Comité permanent du Congrès International de 1900.

A Monsieur le Rédacteur du "Bulletin de l'Association Sériciole du Japon".....F. Brinkley.

Essais et faits divers:

Du séchage rapide des cocons (Rapport de la Laboratoire d'études de la Soie à Milan.)

Foukétsu (lieu où l'on conserve les graines) de Bessho, Shinshû.—Modèle des cocons offert par Monsieur Marini.

Questions et réponses:

Méthode de la culture des plants des mûriers. Des insectes nuisibles sur les feuilles des mûriers.— Sur la valeur des feuilles des mûriers.— L'état des vers-à-soie avant la mue.— Du mouvement des vers-à-soie.— De la désinfection des magnaneries.—

Marché des Soies:

Marché de Yokohama.— Marché de New York.— Marché de Lyon.— Marché de Milan.— Marché de Shanghai.—

Nouvelles étrangères:

L'état actuel et ancien des tissages en Amérique.— La situation actuelle des Bourses des Soies en Europe.— Réunion des filateurs italiens.— L'Institut pour la défense des intérêts soyeux en Italie.— La course et la Soierie à New York.

Nouvelles diverses:

Proposition concernant la Commission d'études des Soies. etc.

Le 25 Février 1902.

TOKYO

Association Sériciole du Japon. No. 1. Nishikicho, Sanchome, Kanda. Japon.